

十一月二十五日 午後五時—六時 牛込區早稲田南町七番地より

芝區三田四國町二番地一號小宮豐隆へ (107)

君の手紙は全然勘ちがひです。手紙の中に「です」とか「ません」とかいふ敬語を使ふのはあまりぞんざいに書きたくないからです。候文は習慣上さう思はないか知れないが實は大變鄭重なものです。候文には抗議をしないで「です」や「しません」に對して他人取扱と思ふのは誤つてゐます。日常の言語で手紙をかくのはどうもあまりひどい感じを他に起させやしないかといふ氣が起つてから私は何人に對してもあゝいふ語尾を多く使ふやうになりました。私は自分の小供には日常の言語ですら改つて斯うなさい、あゝなさいとさへ云ひます。談話より一段改つた手紙にあの語尾は禮として相應のものだらうと思ふ。

僕は偶像でないから君等が批評は何とも思はないそんな事を心配して一日も暮せるものぢやない。ヂスイリユ^原ジョンとか人と人の隔りとかいふ哲學は別問題であり又人間に普遍的な問題だから何も手紙に就てのみ云々する必要はあるまいと思つて其方は云ひません。さういふ事を手紙の書きぶりから出立して云々するのは馬鹿々々しいのです。僕にも色々わるい所があるが、君は時々今いつたやうな馬鹿々々しい所を露出する男のやうに思はれます。

右迄 勿々

十一月二十五日

金之助

豊 隆 様

一一二

十一月二十八日 牛込區早稲田南町七番地より

大阪府北區中之島朝日新聞社内島居赫雄氏へ (113)

拜復此方よりも打絶御無音無申譯存居候處久々にて芳墨拜誦先以て御變りもなく結構に候野生健康御配慮ありがたく候幸ひ執筆中も執筆後も同じ状態にて何等の別状なく候間乍憚御安意被下度候近頃は毎日運動に二三時間を費やし出来る丈からだに氣をつけ居候行人につき色々仰難有候此間は松山の一牧師書を寄せて君は行人中の兄さんの様な男なるべしよろしく聖書を讀み玉へとわざ／＼其篇の名を指名しけれ候小生實は聖書をよまず夫から同牧師の注告に従ふ氣にもならず夫故返事も出さず其儘に致し置申候御高著は如仰手元へは參り居らず候行人は製本出來の上是非一本差上度候つらく思へば人間は恥のかきつゞけの様なもの故下らぬ書物でも本屋が出すと

云へば大抵は我慢して應じ申候舊著など縮刷して出すといふ申込も單に藝術上よりは至つて^原避易なれど多少小遣になると思へば恥のかきついでだから構はぬといふ了見も起り申候（虞美人草と草枕合本縮刷年末出版の筈）そののみか書をかけといへばかき畫をかけといへば應ずるなど近頃は自分ながら物騒千萬な事を臆面なく致し居候高著につき云々の御述懐を承り轉た汗顔の至覺えず右の始末を自白致し候蘆屋へ御移轉御健康故の如く御元氣なるやに過般承り候精々のん氣に御消光可然小生も出来る丈無神經になる工夫のみ心掛居候先は御挨拶迄 勿々頓首

十一月二十八日

夏目金之助

鳥居素川兄

座下

一一三

十一月三十日

午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より

芝區三田四國町二番地一號小宮豐隆へ（一〇八）

拜復 岡田の月謝は僕が保證人だからいづれ學校から何とか云つて來たら其時出す氣でゐた此

間當人に聞いたたら多分年末だらうとの話故夫迄打棄置く氣なりし處へ御書面參り候 僕の方ほどつちでもよろし、たゞ借すといふより出してやるといつた方當人も穩當なるべきか 夫はいづれにせよさう悲觀してゐるなら君から右の旨を通じて下さい、又來年四月迄無收入なら夫迄月々二十圓べ八十圓やつてもよろし 其代り普通の人間の如く學校へ出て普通の人の如く及第する義務があります 右迄 勿々

十一月三十日

金之助

豐隆様

一一四

十一月三十日

午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より

福島縣信夫郡瀬上町門春雄氏へ（四）

拜復あなたの覺えてゐる畫はまだありますがあれは上げられません。下手なひどい畫ですから。長塚がはゝと笑つた意味はまづいものをよく臆面もなく懸けて置くといふ意味からです。私はたゞあの趣丈が好なのです。それで記念のためまだ仕舞つてあります。畫が御望みならひまな時

に何かかいて上げますが私のは畫といふよりも寧ろ子供のいたづら見たやうなものです。その小供の無慾さと天真が現れれば甚だうれいのですがたゞ小ぎたない所丈が小供で厭味は大人らしいから困ります。書でも畫でもかきなれないと一通りのものは出来ず。又書きなれると黒人くさくなつて厭なものです。従つてどうして好いか解りません。正岡の書の批評をした事はもう忘れてゐました。あなたの手紙を見ても思ひ出せません。人に書をやると正岡の事どころではありませぬ自分の品位のあやしいので恐縮する丈です此間人に自分の書を見せたら顔真卿の肉筆の玻璃板と比べて見て丸で比較にならない程顔真卿は尊く見えるといひました先は右迄 勿々頓首

十一月三十日

夏目金之助

門間 春雄様

一一二五

十二月一日 午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より

横濱市元濱町一丁目一番地渡邊和太郎氏へ(二九)

拜啓先夜は失禮致候小生途中にて電車を待ち合せたる爲め十二時過に相成申候

却説乍唐突御願の義有之候夫は多分御親類ならんと被存候が渡邊勝三郎君に就ての事に候同君は宏徳會と號し毎年大學の學生の貧困なるものに學資を給與せられ居候此度私方へ參る岡田耕三なるもの右會の補助を受け度旨申出候處來年四月ならでは決定不致旨にて當人は大困却の有様實は先達迄家元の都合夫程不如意に無之ため學業繼續の所昨今は意外の悲境如何とも致し方なく退學するか宏徳會に救つて貰ふかの二つしかない苦しい難關に陥り居候そこで大兄に願ひたいのは(一)候補者中より右岡田を給與生と撰定する様勝三郎君に御口添を願ふ事と(二)來年四月よりの規定をどうか來年正月に繰り上げて明年始めより月々のものを遣つてくれる様同君に御依頼を願ふ事と此二つの件に有之御繁多中實以て恐縮ながら右岡田申すにはさういふ方面から頼んで頂かなくては到底成立しさにないと申候故右岡田に代つて小生より願ふ次第に御座候岡田なるものは佛文科のものにて宅へは始終出入致候好き人間にて頭腦もことの外明瞭に候途中にて廢學致させ候事如何にも氣の毒故斯様の事迄貴配を煩はし申候萬一四月よりの給費を一月に繰上げる事かなひ不申候へば一月より四月迄の間は小生がどうかしてやるより外に途はなくなり申候小生も左程富裕にも無之候へども萬一の場合はその位の事は本人のために致しても宜敷その代りどうぞ四月からの候補者中より岡田丈を被給學生として今から定めて頂きたいと存候さうなれば當人は無論小生も安心致候小生自身勝三郎君に御面會致してもよろしけれどまだ一面識もなき故御遠慮致しとくに舊好ある大兄に御面倒をかける譯に候右あしからず御諒察願上候 勿々頓首

十二月一日

三八八

渡邊和太郎様

夏目金之助

一二六

十二月二日 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

牛込區東五軒町一番地安倍能成へ(一三)

拜啓昨夜清嘯會で君にあひたいと思つてゐた處御出なく失望、用事は大阪朝日から新年もの讀切小説五六段のものを十二月二十五日頃迄に君に書いてもらひたいと云ふのです都合をして書いてやつて來れませんか 高等學校の講演は可成やめに願ひたいが是非といふなら今から一週間來週金の曜位に何かやる事に致しては如何演題は固より未定それ迄に苦痛ながら何か考へる積です此間申した通り畫を描いたり書を書いたり芝居を見たり運動をしたりしてゐると筋道の立つた思索の方面には頭が働かず働かせるのは頗る不快故都合つけば別の人に願ひたいと思ふのですもう一返折返しそこを聞いて呉れませんか 以上

十二月二日

夏目金之助

安倍能成様

一二七

十二月三日 午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より

小石川區白山御殿町百十番地内田榮造へ(一〇) 「はがき」

拜復 (一)氣不精(キブツセイ) (二)拾(ヒロフ) (三)見付ける(此所はミツケル) (四)伸して(ノシテ) (五)無意味(無氣味デアアルマジ) 東京デハ無氣味ト云ハズ(六)話しかけるのが(七)そんな。小生は其んなど書かず。尤も前に假名ばかりつゞいて讀みにくい時は別なり(八)直、御直、間に合ハネバ一定シナクテヨシ。一定出來レバドツチデモヨシ(九)片方(カタハウ) (十)彼女 ドツチニ讀ンデモヨシ(11)何分 コ、ハナニブン(12)善過ぎる?好過ぎる? (13)横ヅケデヨロシ

一二八

十二月七日 午後六時—七時 牛込區早稻田南町七番地より

三八九

小石川區白山御殿町百十番地内田榮造へ(二)

三九〇

拜復

- (一) 此所デハ妾と私と使ひ分けるのです。間違でハアリません
- (二) 句讀是にてよろし 御膳は「おぜん」と振がなの事
- (三) 小さい です
- (四) たたう丈です
- (五) 行燈は忘れたり まあもとの儘にして置いて下さい
- (六) こみぢん です
- (七) ぶつたぎる です
- (八) 八姐さんと直して下さう

昨日音楽會へ参りました歸りに玄關で奥さんにあひました。向ふでも氣がつかないやうだし僕も面倒だから挨拶をやめました 大いに失敬

右迄 勿々

十二月七日

夏目金之助

内田榮造様

一二九

十二月八日

午後八時—九時 牛込區早稻田南町七番地より

本郷區彌生町二番地寺田寅彦へ(三九)

段々押しつまり候御變りなくや小生は運動をしたり芝居へ行つたり遊んでゐる今日上野美術協會で平泉書屋古書畫展覽會といふのを一覽悉く支那人のものにて文展などより遙かに面白く是非買ひたいのが二三十幅もあつたらうと思ふが金がないから聞いても見ず大兄是非行つて御覽なされたたくわざ「〜」勧誘のために此手紙を書き申候賸物も澤山 くれても斷りたいものも夥しけれどよきものは書畫共に垂涎の至りなり是非御出可被成候 以上

十二月八日

金之助

寅彦様

三九一

十二月八日 午後八時—九時 牛込區早稲田南町七番地より

小石川區高田老松町四十三番地津田龜次郎へ(三八)

拜啓先日は失禮高芙蓉の畫を見てから僕も一枚かきました駄目です

今日上野の美術協會にある平泉書屋古書畫展覽會といふのを見に行きました夥しい點數です大變面白い私は文展よりもどの位面白かつたか分らないあなたも是非入らつしやい必ず参考になります、中には畫は面白くても贖物らしいのが随分あります中には本當かも知れないがちつとも難有ないのも澤山ありますもらつても掃溜へ棄てたいのさへ交つてゐます然し好きなものになると堪らないのです。買はうとすれば買へるのだがとても寄りつけまいと思つて聞いても見ませんでした、私は生涯に一枚でいゝから人が見て難有い心持のする繪を描いて見たい山水でも動物でも花鳥でも構はない只崇高で難有い氣持のする奴をかいて死にたいと思ひます文展に出る日本畫のやうなものはかけてもかきたくはありません、平泉書屋展覽會を御報知する筈の處飛んだ事を申しました先は御報迄 勿々頓首

十二月八日

夏目金之助

津田青楓様

書もいゝのが大分あります、

あなたの壁飾りには何處か宗達流の調子があります私は時々あれを眺めて愉快を感じます

一三一

十二月八日 午後八時—九時 牛込區早稲田南町七番地より

府下菓鴨町上駒込三百三十四番地野上豊一郎へ(五七)

先達ては難有う私は別に岡田さんに禮状を出さないから君から宜しく願ひます景清の畫は閑單で調つてゐて傑作です私にはあんなものは到底かけない高芙蓉の畫を見てから僕も一枚かいたがどうもうまく行かない生涯に一枚でいゝから有がたい感じのする繪が描きたい山水動物花鳥何でも構はない有がたいので人が頭を下げるやうな崇高の氣分を持つたものをかいて死にたい。今日上野美術協會へ行つて平泉書屋古書畫展覽會といふものを見たが文展よりは遙かに面白かつた是非行つて見たまへ非常な點數のうちには厭なものも大分まじつてゐる贖物もある様子だが好いものは實に好い買ひたいが金がない僕に岩崎の富があれば書畫併せて二三十幅は是非買つて置く

所です 先は行覽御觀誘迄 勿々

十二月八日

金之助

白川様

一三二

十二月十一日 半込區早稻田南町七番地より

本郷區彌生町二番地寺田寅彦へ (四〇)

拜啓インフルエンザの爲め又肺炎の徴ありとかにて御悲觀御尤もなれどインフルが退去すれば片方も撃退される様子ならば夫にて結構かと存候別に御心配なく御養生願上候御嚴父御死去の爲めの神経ならば幾度も死にかゝつて生き還つた小生の事を考へて樂觀ありたきものに候 小生晝をかくのと遊ぶのと運動するのとでいそがしく候 晝も明日はやめやう／＼と思ひながら其明日がくると急に描きたくなり候まあ酒吞がバーの前を通るやうなものと存候其癖うまいものはかはず飛んだ酔興に候 年内には御歸省の由其前いづれ拜顔の機を得萬々可申述候 以上

十二月十一日

金之助

寅彦様

一三三

十二月十一日 午後六時―七時 半込區早稻田南町七番地より

横濱市元濱町一丁目一番地渡邊和太郎氏へ (三〇)

拜啓先日は岡田生件につき御面倒なる事御願申上候處早速御承引被下千萬難有候渡邊勝三郎君にも再度御會ひ被下候よし御手紙にて承知御禮申上候いづれ何とか御挨拶ある趣敬承致候御返事相待ち申すやう本人に申聞べく候

鮭二尾歳末の御寄贈いづもながらの御好意拜謝致候此方よりは何も上げるものもなく候來春拙

著行人出來の節は一本を左右に獻じ度く存居候先は右迄 勿々

十二月十一日

夏目金之助

渡邊様

十二月十四日 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より

仙臺市清水小路五十番地小池堅治氏へ(一)

拜復小生の早稲田文學に載せたる談話今般御發行のゾーデルマンの翻譯に御入用との仰敬承致候へども右はふるさものに於て小生の記憶にはしかとまり居らず従つて其儘の御轉載は少々困却致し候が小生談話の當時早稲田文學に載せられたるものとしてあなたの序なり緒言なりに御引用なるのは一向差支ない義と心得ます右御返事迄 勿々頓首

十二月十四日

夏目金之助

小池 堅 治 様

十二月二十六日 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より

小石川區白山御殿町百十番地内田榮造へ(一) 「はがき」

拜復如何とも君のいゝと思ふ様御取計願候

十二月二十六日夜

十二月二十八日 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より

金澤市茨木町四十五番地大谷正信氏へ(一)

長らく御無沙汰をしました御健康で結構です私も無事です御安心下さい
智慧と運命ありがたく拜受しました御禮を申します年の暮のせいか私のやうな閑人も何だかせわしない氣がします 文士が假裝會などをやります、どういふ興味に驅られるのでせう私は町の中を歩いてる方が餘程面白いと思ひます

右迄 勿々

十二月二十八日

夏目金之助

大谷 繞 石 様

十二月二十九日 午後(以下不明) 牛込區早稲田南町七番地より

麴町區元園町一丁目武者小路實篤氏へ(ハ)〔はがき〕

「心と心」について「生長」が参りました、最初にある「それから」の當時の御批評は私には
いゝ記念であります、御禮を申し上げます

十二月二十九日

十二月三十一日 午後八時—九時 牛込區早稲田南町七番地より

横濱市元濱町一丁目一番地渡邊和太郎氏へ(三二)〔印刷したる年賀状の端に〕

岡田の事本年より學資をうける事になり候御配慮難有存候

十二月三十一日 午後十時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より

麻布區三河臺町二十七番地志賀直哉氏へ(二)

御手紙を拜見しましたから御返事を差上げますがそれを御覽になる時は御正月ですから御目出
度も一所に申上で置きます 武者小路君を通して御依頼した事につき御承諾のよしを御洩し被下
まして難有存じます夫に就てわざ／＼會見の日取を御問合せになりましたが私の方は今いつが空
いてゐるといふ程多忙の身體でもありませんからあなたの方で極めて一寸御通知を願ひたいと思
ひます若し私の方が都合が悪ければ其時申上ますから 御宅と私の家とは大變かけ隔つてゐて御
氣の毒です 電車は江戸川終點が若松町行の柳町といふ停留所で御降りになりますので、是も序に
申上ます 以上

十二月三十一日夜

夏目金之助

志賀直哉様

大正三年

一

一月五日 午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より

大阪市東區農人橋二丁目池崎忠孝へ(二)

拜啓 あなたを書いてくれた私に關する評論は御手紙の届いた大晦日の晩に讀みました。夫迄はいそがしくて見られませんでした。あなたの論文は長いものです、又骨の折れたものです。あなたは外の人よりも私に讀んでもらひたいといふ以上あの論文を書いた動機のうちには私の爲に書くといふ好意が含まれてゐます。私は自分の爲にあなたが是程と勞力と時間を使つて下さつた事を感謝します。

近頃アセニームに私の事を書いたものがあります。私は自分のやうなものをわざ／＼英國へ紹介してくれたブライアンといふ人の好意に對して謝さなければならんと考へてゐます。然し彼のいふ所は如何にも空虚です一冊も私の本を讀んでゐずに好加減な人から好い加減な事を聞いて

夫を英文にしたものですから私は夫以上に難有いとも何とも思ひません、然しあなたは私の書物を現に読んでゐるのです、さうしてそれをあなたの頭でまとめたのですから、其點で私は御禮をいはなければなりません（生田長江氏のかいた漱石論もブライアンの毛の生へたものに過ぎません）

あなたは私を大變ほめてくれました、あなたは御世辭を使つた積ではないでせう。あなたの眼に私があゝ映ずるなら私はえらい人かも知れません。然し「し」あなたの纏め方は（私の褒貶を離れて見て）まだ足りません。書き方の割合には中の方が薄い心持がします。夫から書き方に大きく見えて其實確かりしてゐない所があります。私は褒められ足りない不満足を感じるのでありません、あなたの纏め方や、あなたの書き振にまだ足りない所があると思ひます。然しあなたは全然真面目で書いてゐるのですから私が今かう云つても恐らく通じないかも知れません。私は私のいふ事が今にあなたに通じる時機がくる事を希望しかつ信ずるのであります。文學に専門の大家やなどの論文を見ても外部は如何にも立派さうに見えながら其實少しも立派でないのが澤山あります。あなたは此方面を専門する人でないから、いつやめるか分らないと思ひますが、もし長く文壇に關係しやうと思ふなら、私のいふことを参考にして下さい。さうして是等の大家の行く方向とは反對の方へ歩いて下さい。これが私のあなたに云ひ得る最上のものです。御禮をいふ傍ら失禮も云ひます。年長者の言葉と思つて許して下さい。以上

一月五日

夏目金之助

赤木桁平様

二

一月六日 午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より

本郷區駒込西片町十番地大塚保治氏へ（五）

啓 心の花新年號わざ／＼の御寄贈難有う。君の大西君に對する追回談^原を早速讀んだ。僕は西君を知らないから君の評價が當つてゐるか居ないか丸で分らない。然し君の頭にある大西君は明瞭に虚飾なく秩序正しく出てゐる。あれは談話だけでも君が訂正したからあゝさちりと出来上つてゐるのだらうと思ふ。あのスタイルは甚だ好いと思ふ。あれで澤山だから君は美學に關する論文でも最近歐洲文藝史でも其一部分でも公けにしたら何うだらう。大學でばかり講義をするよりも廣く天下の人に見せる方が僕は賛成だ。どうせ君は學者なのだからいくら著作を輕蔑したつて學者を輕蔑したつて今更始まらない以上學者としての活動をしたらいゝではないか

大西君の好きなジニアルといふ字を見た時一寸驚ろいた。ジニアルといふ字の意味は知つてゐ

る積であるがそれをジニアスの形容詞に使つたのは殆んど僕の記憶にない。それで僕は念のために字引を引いて見た。すると成程大西君の用ひる意味の例が出て来た。然し *here* とかいてあつた。で僕も落ち付いて。大西君が滅多に用ひられない意味で此形容詞を使はなければならぬ程ジニアス(天才の人)を認めなかつたかと思ふといかに彼が人を別にした作物や論議丈に重を置いたかゞ分つて面白い。巢鴨のイデオットをサブライムだと云つて感心する所などは甚だ面白い。僕は大西君の萬事が此例に出てゐる様な調子であつたら「う」と思ふ。然し僕は彼を知らないのだから多く云ふ権利を有たない 以上

一月六日

保 治 様

金 之 助

三

一月七日

午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より

府下下灘谷百二十二番地小泉鐵氏へ(三)

昨日あなたへ行人を一部送りました。ノア々々の御禮として記念の爲に上げたのだから受取つ

て下さい。所がわからないから洛陽堂宛にしました。今日あなたから手紙が来たので始めて御住所を知りました。惜しい事をしました。

實は昨日あなた「の」白樺に出た小説を読みました。半分以後は呼吸がつまるやうな心持がします。まことに悲しいものです。さうして美しいものです。私は個々の人が個々の人に與へられた運命なり生活なりを其儘にかいたものが作品と思ひます。何となればそれに接した時自分に與へられないものを見出して啓發を受けるからであります。あなたの書いたものも私にとつてその一つであります。

氣に障るかも知れませんが一口遠慮のない事を云ひます。女主人公の所へくる女友達の手紙の文句にはみんな何かこびりついてゐます。もつとすつきりしたものが欲しいと思ひます。感情をいつわつたものではありませんが、感情に訴へ過ぎるのでせう。女主人公自身の残した日記のうちにも其痕迹があります。あなたの心を傷けるためにいふのではないから勘辨して下さい。

あなたにもあの小説に似た悲しい事實の記憶が新しいやうに人から聞きました。さういふ氣分の所へ行人などを送るのは邪魔になる丈でせう。然し讀んでもいいのです。たゞ受取つて置いて下さい。

私ほからだは今の所悪くもありません。あなたは熱が出たさうだがよく御用心をなさい。此間大塚にあつたらあなたの事を話してゐました。 以上

一月七日

小泉 鐵様

夏目金之助

四

一月七日

午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

本郷區駒込西片町十番地畔柳都太郎氏へ (二七)

近頃は不勉強にて外國のものを讀まず、佛語と獨乙語の稽古のために雑誌などを見るけれどもそれすら思ふやうに行かんで自分も恐縮してゐます。そこで君の手紙にあるミス デュリアもゼ ストロンガーも知りません、彼のブルーブックも解りません。然し是は聞いて置きたいから一寸教へて下さい。メンデリズムの方は殆んど無知識だが是は一寸伺ふに時間がかゝるから聞かんでもよろしい。

僕の講演にあるイミテーションとインデペンデンスはいゝ對語でないかも知れません。然しあなたはいふ類型個型には仰の通り餘程縁の近いものです。私はあれから演繹して類型個型の二文字を點出しそれからクラシシズム ナチュラリズム ロマンチシズムの關係に及ぼさうと思つて

ゐたのではありませんが頭のなかにはさういふものが今でも往來してゐます。いつかエラボレートして見たいと考へます。

僕の講演を私立學校を休んでまで聞いて呉れた君にまだ一言の謝辭も述べないのは甚だ濟まないことゝに改めて感謝の意を致し、又あの講演が私立學教^原の教授を已めてまで聞く價値のなかつた事を御詫び致して置きます。 勿々

一月七日

金之助

芥 舟様

五

一月十一日

午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

芝區三田四國町二番地一號小宮豊隆へ (一〇九) 「はがき」

カブキハ行ツテモイ、ガアンマリ氣ハ進マナイ、サウ芝居バカリ見ルノハ鼻ニツク。モシ行ケバ僕一人デス、妻ハ行カナイトイフ。此間ノ奇々怪々タルモノヲ二度見ルト思フトアマライ、氣もしない。以上

六

一月十三日 午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より

本郷區駒込西片町十番地畔柳都太郎氏へ（二八）

拜啓ストリンドベルヒのものは一冊も讀まず英譯は近頃澤山出るけれども名前を忘れてしまふ故ついで伺ひました。御返事に對して御禮を申す。メンデリズムに就ての御教示も御面倒でしたらう難有う。あれは餘程前に聞きましたね、たしか君から聞いたんぢやないかと思ふ。然し其時から面白いといふ丈で感動しなかつたのみかだ／＼しくて覺える氣にならなかつたのでつい忘れてしまつたのだと思ひます。然しあいつは君簡單すぎて容易に人間の精神杯には應用出來ないでせう。そこ迄メンデリズムが進歩すれば大變なものではありませんか。實驗心理で發見した事は精神界の極めてカタツパシで夫でぐん／＼全體が押せるものでないと同じぢやありませんか。従つて僕はメンデリズム杯と文藝などゝは今の所到底結び付けて考へられるものでないと考へてゐますがね。メンデリズムで説明の出來る文藝上のフェノメノンが有つたら是非氣が付いた時知らして呉れ玉へ。其時は大變利益をうけるだらうと考へます。僕は自分で文藝に携はるので文藝心理を純科學的には見られない。又見ても餘所々々しくとてもそんなものに耳を傾ける氣がし

ない。僕のはいつでも自分の心理現象の解剖であります。僕にはそれが一番力強い説明です。若しそこに不完全なものがあればそれは心理現象そのものゝ複雑から來るので方法のわるい點からくるとは考へられませんか。もしメンデリズムが非常に進歩して御前の文藝上の作物はAとBとCと……とからの遺傳がかうなつて出て來てゐると科學者から説明されても僕は僕の頭で自分を解剖して（不完全な解剖でも）いやさうぢやないと斷言するかも知れません。どうでせう。然し文藝で新しいといつても空論だメンデリズムの遺傳法で來るのだといふ君の主意と意味が僕には徹しないので議論が矛盾になつてゐるかも知れません。新しいといふのは俗語ですが其俗語のうち自ら科學的に翻譯し得る意味が籠つてゐます。それを明かに道破し得た時にメンデリズムが文藝に口を出す權利が始めて出てくるのではありませんか。至つて不秩序で失禮。臨風と御光來を願ひます。此次の土曜は駄目です。若し時を極めてくるなら飯でも差上げてゆるゆる御話をしたい如何でせう。以上

一月十三日

金之助

芥舟様

一月十三日

午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

横濱市元濱町一丁目一番地渡邊和太郎氏へ (三三)

拜啓

此間行人を一部送りましたが届きましたらう。三十部も四十部も署名してゐるうちに送つたか送らないか解らなくなつてしまひます。石井柏亭にわざ／＼断りを云つてやつたら先方から本は慥かに届いた何かの考違だらうなど、云つて來ました随分毫碌してゐます。

それは儲置舊冬御配慮を願つた宏徳會の件其後同會より岡田耕三を本年一月から會員にしてやるといふ手紙が來ました是で本人も安心して勉強が出來ます御骨折に就ては私から感謝致します渡邊君に御會の節はどうぞよろしく願ひます早速御禮を申上げるべき筈の處ごとくで後れて濟みません。實は此事も或は年賀狀の表に附記して御禮を述べたかも知れませんが賀狀を出す時は書物をやる時よりも滅茶々々ですから或は失念したかも知れません。今改めて御禮を申上げたいと思ひます 勿々

一月十三日

夏目金之助

渡邊和太郎様

一月十四日

午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

麴町區内山下町一丁目一番地東洋協會内森次太郎氏へ (二二)

御手紙拜見しました「素人と黒人」を御ほめ下さつて難有う御座います、幅物を持つて御還りださうですが拜見したいものです。霽月にやつた墨竹は其時は可なりの出來と思つたが今もう一遍見ないと何とも云へません、本人がいゝと思つて表装するなら格別それでなければそれには及びません、あなたに頼まれた達磨はあれぎりですが外に色々かきました私の上げてもいゝと思ふものゝうちで思召に叶ふものがあるなら達磨の代りに上げてよろしう御座います右迄 勿々

一月十四日

夏目金之助

森 圓月様

一月十四日 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より

高田市横町森成麟造氏へ（九）

御無沙汰をいたしました此間は海老と笹飴をありがたう何も上げるものもありませんから行人を一部呈上致します御受取を願ひます。杉本さんは歸つて來ましたね私は音楽會で一遍電車の中で一遍會ひました然し患者としてはまだ交渉がありません。まあ仕合せなんでせう。柏戸は本場所を休んでゐますね。強くなつたやうですね 以上

一月十四日

夏目金之助

森成麟造様

一月十四日 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より

府下西大久保六十六番地戸川明三氏へ（一〇）

拜啓其後は久しく御目にかゝりません御健勝の事と存じます私も變りはありません。

今度私の行人が出版になりましたに就いて一本を差上りたいと思ひ小包で差出しました御受取を願ひます。行人の出でゐるうちは時々御ほめの言葉を頂戴しましたのを記憶してゐます。それで感謝の記念に御送り致します 右迄 勿々

一月十四日

夏目金之助

秋 骨 様

一月十八日 （以下不明） 牛込區早稻田南町七番地より

越後國糸魚川山崎良平氏へ

拜啓良寛詩集一部御送被下正に落手仕候御厚意深く奉謝候上人の詩はまことに高さものにて古來の詩人中其匹少なきものと被存候へども平仄などは丸で頓着なきやにも被存候が如何にや然し斯道にくらき小生故しかと致した事は解らず候へば日本人として小生は只今其字句「の」妙を諷誦して満足可致候上人の書は御地にても珍らしかるべく時々市場に出ても小生等には如何とも致

しがたかるべきかとも存候へども若し相當の大きさの軸物でも有之自分に適〔當〕な代價なら買ひ
求め度と存候間御心掛願度候右御禮旁御願迄 勿々頓首

一月十七日

夏目金之助

山崎良平様

一二

一月二十一日

午後五時—六時 牛込區早稲田南町七番地より

本郷區駒込西片町十番地畔柳都太郎氏へ〔二九〕〔はがき〕

拜復二十四日御兩君の御出を待ちます、粗飯を差上度其つもりで御出下さい、但しとくべつに
何もなし西洋人に呼ばれたと同じ事です

一三

一月二十一日

午後八時—九時 牛込區早稲田南町七番地より

府下漣谷百二十二番地小泉鐵氏へ〔三〕〔はがき〕

拙著を再度御讀み下さつた由それにつき色々の御感想ありがたく伺ひました、水原ふぢ子とい
ふ人の原稿は決して急いで入用ではありません、ゆつくり御とめ置き下さい

一四

一月二十四日

午前十時—十一時 牛込區早稲田南町七番地より

府下巢鴨町上駒込三百三十四番地野上豊一郎へ〔五八〕

拜復今日は宅で畔柳と笹川とを呼んで夕飯を食ふ約束があるので謠には出られません 折角の
招待まことに残念です 坂元が隅田川をやるなら脇の語で威嚇してやりたいが已を得ない 妻は
晩に森田のところの躑の浚に行かなければならないから是亦行かれませぬ
此間もらつた粕漬は大變うまかつた又くれたまへ 勿々

一月二十四日

金之助

豊一郎様

一五

四一六

一月二十四日

午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より

金澤市茨木町四十五番地大谷正信氏へ(二九)

拜啓御惠贈の魚罐入にて本日到着ありがたく御禮申上候まだ見た許で何の魚とも判然せず大方ふなだらうと存候 近頃は雪で嘸御寒い事と思ひますが東京は幸好天氣がつゞいてゐます然「し」寒氣は随分です 時節柄御身體を大切になさい 御禮迄 頓首

一月二十四日

夏目金之助

大谷様

一六

一月二十四日

午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より

鹿兒島市上龍尾町九十三番地野間真綱へ(七三)

拜復今度の爆發では實際びつくりした新聞が大袈裟なのか事實がひどいのか何しろ驚ろかされ

たが電報が不通といふので安否を問ひ合せる譯にも行かず困つてゐたのです。夫でも返電がきて無事とあるので安心した夫から手紙も來た 随分不安の事だつたらうと思ふがそんな事に出會ふのも生涯の經驗としては再度とないといふ意味で面白い氣が大分ある出來れば其時に鹿兒島にゐてあとから其時の様子を書いて見たいと思ふ マードックさんも無事だらうと思ふもしあつたら宜敷いつてくれ玉へ皆川君も無事でよかつた 僕は十二日はたしか芝居に行つてゐたと記憶する其時君等が逃げ出してゐやうとは氣がつかなかつた 先は御喜びまで 勿々

一月二十四日

金之助

真綱様

一七

一月三十日

牛込區早稻田南町七番地より

麴町區内山下町一丁目一番地東洋協會内森次太郎氏へ(二四)

啓 藏山と藏澤の箱出來早速御届け下さいましてありがたう御座います、まだ外に兩三個願ひたいのですが寸法もありますから今度御出の時に又御面倒を願ひたいと思ひます 紙は受取りま

四一七

した其内何か書きませう 霽月は清水老人から明月の書をもらつてくれました私に代りに野田笛浦の書を送りました明月はうまいものですそれを表装をしかへなければなりません今度御目にか
けたいと思ひます 以上

一月三十日

夏目金之助

森 圓月様

一八

一月三十日 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より

本郷區彌生町三番地増田方林原(當時岡田)耕三へ(三九)

あたまがわるくてまた學校を休んでゐるさうぢやないか、夜寐られなけ「れ」ば 眠薬を買ふ
金位どうでもするから學校へは成るべく出る事にしたと思ふ。

儲縮刷の三四郎、それから、門合本の校正をやる人が必要だが君出来るか。安倍の方でも都合
よければしたいといふ。或は半分づゝにしてもよいと考へてる、然し君に金の必要が非常にある
なら全部君に譲つてもいゝ、如何

一月三十日

金之助

耕 三様

一九

一月三十一日 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

福岡市外東公園久保猪之吉氏へ(三)

拜啓

鼻科學の下巻を御送り下さいまして難有頂戴致しました 頼江さんは昨年暮から御病氣で入院
なさつたさうですが一向存じませんでした御病症も解りませんが不日退院といふ御書面故大した
事もないのだらうと存じて居ります時節柄精々御加養なされる様願ひます 先は御禮旁御見舞迄
勿々頓首

一月三十一日

夏目金之助

久 保様

二〇

一月三十一日 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

京橋區築地明石町六十一番地松根豊次郎へ (四六)

小包にて印章到着 是は先日小さいぬめに拙字を認めた御禮と思ふ無石先生の御好意を感謝する旨よろしく貴兄より同君に御傳へ被下度候
斯ういふものを贈つても本人から禮の來ないのは物足らぬもの故どうぞ忘れないやうに無石君へ御傳を願ひます 風が吹いて寒くて困る 以上

一月三十一日

金之助

東洋城様

二一

二月二日 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

本郷區彌生町三番地増田方林原(當時岡田)耕三へ (四〇) 「はがき」

君の事情も困難かも知れないが君の經濟は猶困難だらうと思ふ校正が足しになるならやつてくれ玉へ、いづれ春陽堂から何か云つて行くだらう

二二

二月七日 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より

芝區三田四國町二番地一號小宮豊隆へ (二一〇) 「はがき」

啓十一日の市村座へは妻の僕原の兄をつれ行く君と合せてうづらを一つ取つたら如何 勿々
二月七日

二三

二月八日 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より

熊本市内坪井町百二十七番地奥太一郎氏へ (七)

拜復今度愈御辭任の上長崎の方へ參られる事になりたる由拜承致候大兄の熊本行は實は小生の

推薦の由それは御手紙にて漸く思ひ出したる位十六年の昔故それも道理かと存候然し大兄は小生の配慮を恩義の如く感ぜられわざ／＼の御手紙小生は甚だ恐縮致候小生在熊中こそ種々御世話に相成御蔭にて左したる公務上の不都合もなく無事に引上げ候段深く感謝致居候大兄も十六年後の今日漸く別方面へ活動の餘地をつくるための御轉任なれば小生はたゞ心中より喜び申候長崎着の上は女子教育の方にて充分の御成效乍蔭切望致候先は右御挨拶迄 勿々頓首

二月八日

夏目金之助

奥 太一郎様

二四

二月九日

午後三時—四時 牛込區早稲田南町七番地より

麹町區内山下町一丁目一番地東洋協會内森次太郎氏へ (二五)

拜啓先日御送の玉版箋を二つに切り其一つへ御依頼の書をかき申候處出來具合あまりよろしからず更に自分で畫箋紙を買ひそれへ改めて認め候もの却つてよろしきやう被存候間それを呈上する事に致候尤も二枚とも取り置き候故御覽の上御取捨願候も一つ畫家への御注文も出來候へど

も是はことによると他の方へ遣るかも知れぬ故其積に願候小生の御依頼申上置候畫の表裝出來候へば其節は恐縮ながら御届願度其折前述の惡書を差上る事に致し度と申候先は御報知迄 勿々頓首

二月九日

夏目金之助

森 圓月様

二五

二月十日

午後一時—二時 牛込區早稲田南町七番地より

金澤市美木町四十五番地大谷正信氏へ (三〇)

拜啓開いた處が只今小包で届きました難有御禮を申上ますあの中には私の讀まない人の文章が可成あるやうです あなたは能く懇氣にあれ丈の仕事をなさいます感心の至です

此間の鮎の甘露煮は奥さんのとくに私に下さる積での御手製の由に後から承はりまして猶更恐縮致しましたどうぞ奥さまへよろしく御傳下さいまし

不取敢本の御禮の序に鮎の御禮を繰り返します 勿々

二月十日

四二四

夏目金之助

大谷繞石様

座下

兩三日前雪が降りました珍らし「い」位で御蔭で道は散々になりました

二六

二月十四日

午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より

牛込區市ヶ谷船河原町十二番地木村恒氏へ(二)

拜啓小説を拜見しました。あれも決して傑作ではありません、即ち公表するに足る程なものはありませんでした。尤もよくない所は白い髭の生えてゐる御爺さんの出てくる處です全體から見れば餘計なばかりでなく離れて見てもうその色彩に過ぎません。

始めの出合の處、宅で馬に秣をやるあたり、店の喧嘩、若いものが夜いたづらをする處などはよろしう御座います。

構想からいふと女と一所になれないので父が死ねばいゝと思ふのはよろしい。其父が死ぬ偶然

はよくもありわるくもある。よく行けば自然でかつ奇抜であるが悪く行けば全然作りごとになる。あなたのは恐らく兩方なのではないか。其父の死から出る心理上の變化も自然にかけばあれで面白いがあれでは作者の概念を事實にする爲に事件を拵らえたとしか見られないです。

あなたが急ぐやうだから急いで見ました。さうして手紙で評をかきました。玉稿は御出迄あづかつて置きます。 勿々頓首

二月十四日

夏目金之助

木村 恒様

二七

二月十八日

午後八時—九時 牛込區早稻田南町七番地より

金澤市茨木町四十五番地大谷正信氏へ(三)

拜啓東京は段々暖かになつて來ます金澤は如何ですか矢張も「う」春の心持がするだらうと思ひます、春になると金澤などの田舎の景色を想像して夢のやうに描いてゐます、倅突然妙な事を願ひますが實は私の大學で教へた英文科の卒業生のうちに皆川正禧といふ男がゐます是が今の處

四二五

は鹿兒島高等學校の教授ですけれども國は越後と會津の境あたりで家には父母がまだあるのです、所が其老人連が淋しいのでせう彼を自分達の傍へ呼びたがるのです、それで彼は好加減に辭職して郷里へ歸らうかとも考へたのださうです。然る「に」今度あなた「の」學校の西川君が鹿兒島へ轉任したに就いて彼は其後任になつて郷里へ近い金澤へ行きたいから是非あなたに依頼して見て呉れると云ふのですが如何なものでせう。皆川と云ふ人は正直で極めて好い人間です顔を見ると神經質のやうで氣性はちつとも神經質ではありませぬ學問も書物はよく讀む方だと思ひます、まだ西川君の代りが出來てゐないなら此男もどうぞ後任の候補者の中に數へて下さいませんか。私は皆川からの依頼で其依頼をあなたに又御依頼せねばならないやうな位地に立つて居ります、あしからず御了承を願ひます 以上

二月十八日

夏目金之助

大谷 繞石 様

二八

二月十八日 午後八時—九時 牛込區早稻田南町七番地より

鹿兒島市春日町百二十六番地皆川正禧へ (三三)

拜復其後も一週に一度位は降灰の趣セルロイドの眼鏡で外出するなどは奇觀である 偕御依頼の件本日金澤の繞石へ申して遣りました大谷とは始終書信の往復があるから遠慮も入らないので都合がよかつた然し大谷の方でどんな返辭をよこすか夫は全く知らずいづれ何とか云つてき次第すぐしらせませう野間君へよろしく 以上

二月十八日

金之助

正 禧 様

二九

二月十九日 午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より

福島縣信夫郡瀬上町門間春雄氏へ (五)

拜復御旅行中は時々晝端書頂戴難有候ことに奈良よりの鳳凰の瓦の圖は頗る美事なるものにて愉快に候却説觀光中御老人御病氣の由にていそぎ御歸郷の處間に合はず既に御永眠の後なりし由定めて御落膽の事と深く御察し申上候不取敢微意を寸楮に託し哀傷の辭をつらね候時下餘寒猶料

峭の折柄折角御自愛是祈候

右迄 勿々

二月十九日

夏目金之助

門間 春雄様

三〇

二月二十三日

牛込區早稲田南町七番地より
鹿兒島市春日町百二十六番地皆川正禮へ (三三)

拜啓先達の御依頼により金澤の大谷君へ委細打開たのみたる處別紙の如き返事あり君の轉任の事は是にて當分六づかしき有様也 大谷君の手紙は逐一事情を明かにしあれば御參考の爲め同封にて御送り致し候御披見可然候 昨日より雪にて今猶降り已まず中々の寒氣に候 御地降灰は如何にや

右迄 勿々

二月二十三日

金之助

正 禧 様

三一

二月二十四日

午前十一時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より
牛込區市ヶ谷左内坂町橋口清氏へ (三二)

拜啓其後は御無沙汰御變りもなきや 脚氣の方はもうさつぱり御平癒の事と存じます 儲此間散歩に出た序に古道具屋で山水の小幅の氣に入りたるものあり價格も低廉故求め歸り候處筆者不相分落款には瓜廬散人と有之候故畫家人名辭書など練りひろげ探したれど見當つかずもし大兄御存じならば伺ひ度と存候もし御承知ならば序の節調べるか誰かに聞いて頂きたいと思ひます 固より急ぐ事ではありません又分らなければならぬ程必要でもありませんが知れれば知りたいたいのです ちと御出掛なさい私も其内御邪魔に出ます 以上

二月二十四日

夏目金之助

橋口 五葉様

三二

二月二十六日 午後四時—五時 牛込區早稲田南町七番地より

小石川區高田老松町四十三番地津田龜次郎へ (三九) 「はがき」

拜啓 此間の佛蘭西の珍書の名前はよく解らないから西洋紙へインキで書いてもう一返送つて下さい 以上

三三

二月二十八日 午後三時—四時 牛込區早稲田南町七番地より

廣島市大手町一丁目井原市次郎氏へ (九)

拜復 短冊四葉御求めの由承知致候處不幸手元に一葉もなく候故色紙にて用を辨じ申候 是は偶然四枚有之候いづぞや誰か持つて來て其儘になりたるものにてわるき色紙にも無之故夫へかきて差上候御受取被下度候 此間の栞は大變うまいものに候 以上

二月二十八日

井原市次郎様

三四

三月一日 午後三時—四時 牛込區早稲田南町七番地より

牛込區市ヶ谷船河原町十二番地木村恒氏へ (三)

あなたの手紙を読みました夫からあなたの小説をよみました、だから事實の興味に驅られて小説としての價值がつけにくくなりました 然しどうも無疵ではあるが一體からいつて高級に屬するものではないやうです。まあ世間並といふのが適當な所と思ひます

大阪行の事及び其原因も承はりました世の中には色々な波瀾の起る必要があるのだから御決心を翻がへさすやうな事は申しませんがあの地へ行つてすぐ新聞などに入社の手續になるといふ事は殆んど困難かと存じます大阪朝日には知人が兩三名あります然しあなたを紹介した所でもないそれとあなたを記者に採用するやうな事は到底出來ないでせう、もし自活の必要があるなら大阪へ行くのはもう一度御考へなさい困る丈だから、夫よりもあなたの御兩親の信用してゐる人に頼んでもう一度あなたの所志を貫くやうな運動をして御貰ひなさい其方がいゝでせう、萬一大阪へ行

くなら朝日に長谷川萬次郎といふ人がゐるから私の名をいつて會つて御覽なさい 然し彼にあつた所で何も出来ないのは殆んど明白ですから其邊もあらかじめ失望しないやうに御注意申して置きます 以上

三月一日

夏目金之助

木村 恒様

三五

三月二日

午後六時—七時 牛込區早稲田南町七番地より

芝區三田四國町二番地一號小宮豐隆へ(二二二) 「はがき」

拜啓私は當分芝居へ行かないから市村座の番づけを持つて來るのを宮村さんに斷つて下サイ、若シ行ケバ番付をクレナクテモ行キマスカラ

三六

三月四日

午前六時—七時 牛込區早稲田南町七番地より

芝區三田四國町二番地一號小宮豐隆へ(二二三)

成程菊五郎の浦島は素人でもありません又黒人でもありません。それぢや天才かといふとさうでもありません。素人と黒人の間に立往生をして齒搔いでくの坊が出来上つてゐるのです。

私は芝居に大した興味を持ちません、菊五郎輩から問題を投げかけられたつて私の知つた事ぢやありません、吉右衛門に會ふのも當人が望んで會ひたいといふなら會ひます、然し君が勧めてつれてくるなら御免蒙ります。僕は君に對する好意の方向を求むる所のない吉右衛門に轉換して振りかへる譯に行かないのだから

私は狂言座の顧問を斷りました。當分芝居は見たくありません。役者の心得方や芝居へ這入る藝者輩の氣分が藝術と飛び離れた不快な念を私に起させます。以上

三月三日夜

金之助

豐 隆 様

三七

三月四日 午後六時—七時 牛込區早稲田南町七番地より

芝區三田四國町二番地「號小宮豊隆へ」(二二二)「はがき」

甚だ御面倒ながら一寸願ひます。社のものが永井荷風君に會ひたいと云ひます。所が同君は新聞記者には會はない人ださうです。夫で僕に紹介をくれと云ひますが、僕は君を煩はした方が有教だらうと思つてさう答へました。どうか永井君に頼んで東朝記者に會ふやうにして下さい、さうして永井君の都合のいゝ日を知らして下さい 草々

三月四日

三八

三月十三日 午後十時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より

京都市富小路御池西川源兵衛氏へ(二)

拜啓先達の朝書畫帖が一冊届きました夫から晩方に綺麗な百合の花が又届きました花は下さつたのだらうと思つて翌日花瓶に插しました珍らしいと思つて眺めてゐますが來客は一向氣がつかない様です人間は随分不注意千萬なものです 花も珍らしいがあゝの荷作りの手数は大變なものだらうと推察して御好意を深く感謝致します 所があゝの書畫帖の方は何の爲なのだか一寸迷ひます

大方御手紙があとから參る事と思つて待つてゐましたが一向參りません夫で下さつたのかあれへ何か書けといふ意味が解らないのです 御禮を申上る序に一寸夫を伺ひます 大分春めいて暖かになりました 博覽會へ御出掛になりませんか 右迄 匆々

三月十三日

夏目金之助

西川一草亭様

三九

三月二十日 午後四時—五時 牛込區早稲田南町七番地より

金澤市茨木町四十五番地大谷正信氏へ(三二)

拜啓御新著頂戴難有う存じます私はガルスフーシーといふ人のものを讀んだ事がありませんか
らあれをすぐ通讀しましたあれは全體として大陸ものゝやうな氣がします、あのうちの二つか三つには感心させられました 私はまた小説を書かなければなりません書く前には氣分をそちらへ持つて行く必要があります 夫には誰の小説でも讀んでゐるうちに自分も自然創作的氣分に侵されてくるやうになるのです、私はガルスフーシーを讀む時さういふプラクチカルな考を懷いてゐ

ました、さうして讀んで了つたら幾分か自分の目的が達せられたやうに思ひます 偶然ながらあなたの御蔭です御禮を申し上げます 以上

三月二十日

夏目金之助

大谷 繞石様

四〇

三月二十二日

午後一時—二時 牛込區早稲田南町七番地より

仙臺市清水小路五十番地小池堅治氏へ (三)

拜啓高著フラウヅルゲ御出版につき小生のかつて著者に對して申したる言葉御引用御取消につき御鄭重なる御手紙拜見却つて恐縮致候御寵贈の書物は 大倉書店より正に届き申候難有御禮申上候

右不取敢御挨拶迄 匆々

三月二十二日

夏目金之助

小池 秋草様

四一

三月二十九日

午後六時—七時 牛込區早稲田南町七番地より

芝區三田四國町二番地一號小宮豊隆へ (二四) 「はがき」

拜復

御目出「度」う御座います。生れたてから親の注意を惹くやうな肝癩ではさぞ骨が折れるでせう。好い名を御つけになりました。奥様へよろしく

三月二十八日

四二

三月二十九日

午後十時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より

伊豆國修善寺菊屋津田龜次郎へ (三〇)

まだ修禪寺に御逗留ですか 私はあるが居なくなつて淋しい氣がします面白い畫を澤山かい

て来て見せて下さい金があつてからだか自由ならば私も繪の具箱をかついで修善寺へ出掛たいと思ひます。私は四月十日頃から又小説を書く筈です。私は馬鹿に生れたせゐか世の中の人間がみんないやに見えます。夫から下らない不愉快な事があると夫が五日も六日も不愉快で押して行きます。丸で梅雨の天氣が晴れないのと同じ事です。自分でも厭な性分だと思ひます。

あなたの兄さんが百合を送つて呉れました。夫から書畫帖を寄こされました。呉れたのか何か書けといふ意味かと思つて聞き合せたら呉れたんぢやないのです。さうかと云つてみんな書けといふでもないのです。私は其儘預かつて置きます。

世の中にすきな人は段々なくなり、さうして天と地と草と木が美しく見えてきます。ことに此頃の春の光は甚だ好いのです。私は夫をたよりに生きてゐます。

三月二十九日

漱石

津田青楓様

皿と鉢を買ひました。もつと色々なものを買ひたい。藝術品も天地と同じ樂みがあります。

三月三十日

午後三時—四時 牛込區早稲田南町七番地より

京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内山本松之助氏へ(二)

拜啓御教示の趣承致しました。今度は短篇をいくつか書いて見たいと思ひます。その一つ一つには違つた名をつけて行く積ですが豫告の必要用上全體の題が御入用かとも存じます。故それを「心」と致して置きます。

此他に豫告の文章は要らぬ事と思ひます。 敬具

三月三十日

夏目金之助

山本松之助様

四月七日

午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より

埼玉縣秩父郡樋口村四方田美男氏へ(二) [はがき]

御手紙を拜見しました私にはあなたからさう慕はれる程の徳も才もありません甚だ慚愧の至でありますあなたの御自愛を祈ります

四月七日

四五

四月九日 午後八時—九時 牛込區早稲田南町七番地より

下谷區谷中天王寺町三十四番地阿部次郎へ(二三) 「はがき」

拜啓 三太郎「の」日記御寵贈にあづかり難有御禮申上候 あの「三太郎日記」といふ名は小生の好まぬものに候中味は讀んだのと讀まないのとありいづれ拜見致す心得に候 御禮迄 勿々

四六

四月十日 牛込區早稲田南町七番地より

埼玉縣秩父郡樋口村四方田美男氏へ(三)

御手紙を拜見致しましたが號などは入らぬものですからよしになさい私は號を有つてゐるが號

を有つてゐない人がつまらないといふ譯にはなりませんつまり私は餘計なものをもつてゐるのであります 右迄

四月十日

夏目金之助

四方田美男様

四七

四月十日 午前十一時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より

小石川區高田老松町四十三番地津田龜次郎へ(三二)

拜復御歸りの由畫が五六枚かけた由結構です其うち見せてもらひに行きます昨日は御出とも氣がつかず博覽會へ出掛けて失禮しました美術館を見ましたいやな畫が大半です朝鮮館の出口に昔の陶器と佛像があります、其うちには面白いものがあります、座禪館といふ中にある木像も二つ程氣に入りました私もあなたと同じやうに何かやりかけて油がのる時分に止める都合になるのが残念です、畫もいやになる迄かいて夫から又文學なり批評なりに移つて行きたいと思ひます小説ももう書き始めなければなりません、夫で畫はやめました、あの馬の畫の柳へポツ／＼を打ちま

した多少よくなりました今度来て見て下さい 以上

四月十日

津田 青楓様

夏目金之助

四八

四月十一日 午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より

府下青山原宿百七十番地ノ十四號森次太郎氏へ(二カ)

表装代残り三圓五十錢小爲替にて御送り致候御受願上候重ねて御光來の節と存じ候へども夫もいつか分りかね候事故御手数をも願みず爲替に致候

此間の瓜廬山人はわかりかね候や蘭亭吉祥も古城氏には判然致さず候や序を以て伺ひ申候 以上

四月十一日

森 圓月様

夏目金之助

四九

四月十四日 午前十時—十一時 牛込區早稲田南町七番地より

本郷區彌生町二番地寺田寅彦へ(四一)

拜啓久々御目にかゝらず御起居如何と思ひ居候處一昨日曜に御尋ね被下候由歸宅後承はり残念に存候あの日は家のもの柏木華州園と申すに辨當持參にて遊びに參り候故小生もあとより散歩旁徒歩にて出向き申候夫にて出違ひと相成候近頃は人を尋ねずあまり人も好まず何だかつまらなうに暮し居候小説も書かねばならぬ羽目に臨みながら日一日となまけ未だに着手不仕候是も神經衰弱の結果かも知れず厄介に候博覽會へは二度參り候繪はひどいもの多く候朝鮮李王家の出品中陶器及び古佛像に面白きもの朝鮮館の出口に有之御覽にや其内拜眉萬々 以上

四月十四日

寅 彦様

金之助

四月十七日 午後八時—九時 牛込區早稲田南町七番地より
牛込區市ヶ谷田町二丁目馬場勝彌氏へ (三)

其後は御無沙汰を致しましたいつも御變りない事と存じます此間平出君の永訣式の時一寸御顔を見ましたがつい御挨拶をしませんでした

モーパサンの傑作集を御惠贈下さいましてありがたう存じます不取敢手紙で御禮を申上ますあ
あいふものにはあなたの署名が欲しいと思ひます夫は私ばかりでなく書物を贈られたものはみん
なさう思やしませんか私もとは気がつかずに其儘差出しましたが近頃は一々私の名先方の名を
書く事に致しました御禮の序に失禮な事を申上まして済みません 以上

四月十七日

夏目金之助

馬場勝彌様

四月十八日 午後六時—七時 牛込區早稲田南町七番地より
府下巢鴨町上駒込三百三十四番地野上豊一郎へ (五九) 「はがき」

Russia of the Russians by Harold Whitmore Williams. (Pitman & Sons, 6 S. net)

此本のうちにはツルゲネーフ以後現代の作家迄が紹介してある由間に合ふなら見て御覽なさい

四月十九日 午後八時—九時 牛込區早稲田南町七番地より
神戸市平野町祥福寺鬼村元成氏へ (一)

拜復あなたの御手紙を拜見しました何か返事を寄こせとありますから筆をとりましたが別に何
も書く事も出て来ませんあなたが私の本をよんで下さるのは私にとつて難有い事です私は御禮を
申上ます藪の中で猫をよんだといふ事は可笑しいです あなた方の修業の方から見たら餘計な小
説などをよむと定めて叱られるでせう まあ叱られない程度で御やめなさい 私は時々あなたの
手紙を下さるのを讀みたいと思ひます 夫から私はあなたが將來座禪を勉強して立派な師家にな
られん事を希望します 右迄 匆匆

四月十九日

鬼村元成様

夏目金之助

四四六

新聞社からあなたの手紙を廻送して来た時不足といふ黒い判が捺してありました不足税は新聞社の方で拂つたのでせう

五三

四月二十日

午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より

埼玉縣秩父郡樋口村四方田美男氏へ (三) 「はがき」

拜復秩父の繪端書を十枚御送り下さいましてありがとうございますがたう存じます大變好い所のやうに見えます私もいつか秩父の山奥へ遊びに行きたいと思つてゐます、御禮迄 勿々

五四

四月二十四日

午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より

兵庫縣印南郡大國村松尾寛一氏へ

あの「心」といふ小説のなかにある先生といふ人はもう死んでしまひました、名前はありますがあなたが覚えても役に立たない人です、あなたは小學の六年でよくあんなものをよみますね、あれは小供がよんでためになるものぢやありませんからおよしなさい、あなたは私の住所をだれに聞きましたか、

四月二十四日

夏目金之助

松尾寛一様

五五

四月二十六日

午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より

小石川區高田老松町四十三番地津田龜次郎へ (三三)

昨日は參堂失禮しましたあの竹の畫には實際恐縮しましたあれ程まづいとも思ひませんでした近いうち何か御氣に入るものを書いて取替たいと思ひますどうぞ夫迄は御あづかりを願ひます額の方も思つたより悪う御座いますがまだあれは畫よりもましです有島君の注意の自然といふ文字

四四七

をしらべて見ましたら老子に道法自然とあるさうで、自然は矢張り名詞に使はれてゐますからまああれでも構はないでせう

奥さんへよろしくどうぞ喧嘩をなさらないやうに願ひます

四月二十六日

夏目金之助

津田青楓様

あの壁かくしは大變よろしいが私の家の敷物ではあまり赤が勝ち過ぎますそれから單獨にいつて地の色がもう少し沈んで刺戟のない方が私の神経には結構のやうに存じます

五六

四月二十九日

午後三時—四時 牛込區早稲田南町七番地より

神田區南神保町十六番地尙文堂氣付野上豊一郎へ(六〇)

拜復 沼波君が若し希望されるなら小生の名前を出してもよろしく候 さうでなければ控えて置きたく候 夫から私は無名會の會員だから切符を買ふ義務があるやうですがさうすると自由講

座の方からも買ふ事になるのですか 一寸伺ひます 以上

四月二十九日

金之助

豊一郎様

五七

五月十四日

午後五時—六時 牛込區早稲田南町七番地より

本郷區彌生町三番地増田方林原(當時岡田)耕三へ(四二)〔はがき〕

拜復午過は大概小説をかいてしまつてゐますから會へるでせう然しそれは特別で私の希望は木曜です。木曜にきて來足りない時に他の日に御出でなさい。からだはまあよろしい。

五八

五月十五日

午後十時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より

大阪府下濱寺羽衣松南水落義一氏へ(三)

拜復御手紙をいたゞきましてありがたう御座います御病氣で濱寺の方へ御療養に御出との事嘸御退屈だらうと存じます此間ある雜誌であなたの濱寺からの俳句を拜見した事がありますがまだ同じ處に御出なのですか精々御加養御全快を祈ります私はどうかかうか生きてつまらないものを書いてゐます俳句は殆んど作りませんが此間どういふはづみか十七字がならべて見たくなつて四五十ばかり書きつけました虚子には其後久しく會ひません何だか仕舞の稽古などをしてゐるとかいふ噂噂さです私が大阪で病氣をして御世話になつたのももう大分になりますついで此間だと思つてゐるうちにいつか年を取つてゐるには自分ながらあきれますあきれより心細いといつた方が適當かも知れません東京は博覽會で大分賑やかです若葉も綺麗です御回復を祈ります 以上

五月十五日

夏目金之助

水落露石様

座下

五九

五月二十日 午前十一時—十二時 半込區早稲田南町七番地より

小石川區高田老松町四十三番地津田龜次郎へ (三三) 「はがき」

畫を一幅買ひました。(燕村といふのを) 旨いものと思ひます、夫から畫を一枚かきました。明日午後日のあるうちに來て見てくれませんか (兩方を)

二十日

六〇

五月二十一日 午後零時—一時 半込區早稲田南町七番地より

京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内山本松之助氏へ (二二)

拜復御無沙汰をして居ります昨日は又ずるい見から總務局の呼出しに應ぜずその爲め色々な御手數を掛けまして何うも申譯がありません。社長の一同に通知された事を御親切に御教示下さいましてありがたう存じます詳しい事は自身出席しても忘れるものですから大して必要がなければ教へて頂かなくてもよろしう御座いますまあ社員優遇の事と思つて喜んで居ります 右御禮まで 匆匆

五月二十一日

夏目金之助

山本松之助様

四五二

六一

五月二十五日 牛込區早稲田南町七番地より

埼玉縣秩父郡樋口村四方田美男氏へ(四)

拜復私に自信のある作物を御さへになつても何うも困ります是は謙遜でも何でもありませんが、さう是非讀んでいただきたいものもないのです夫から過去の作物はいづれもいやな氣がするものですから自分で人にすゝめる氣になれないのです、あなたの方で作物のうちで名前をあげてこれとこれとどつちをよむ方がいゝかと御聞きになれば御返事は出來ます

あなたは一體何をしてゐる人ですか生活に餘裕がないといふのはどんな職業をしてゐられる爲ですか、夫から學校へ行つた事がないといふのは東京の學校といふ意味ですかあなたが文學者になれるなれないはとても容易には申されません、然し文學者として食つて行く事は大抵な人には困難です、私はみんなに忠告してやめさせてゐます 以上

五月二十五日

夏目金之助

四方田美男様

六二

五月二十五日

午後二時—三時 牛込區早稲田南町七番地より

大阪府下濱寺羽衣松南水落義一氏へ(三)

拜復私が畫をかくとか箇人展覽會を開くとか新聞にあつたからもし開いたら見せてくれといつて來た人がありますしかも夫は畫を専門にする人でした私は驚いて事實を否定してやりましたあなたの御手紙で其出所が漸く分りました時事新報では大方冗談半分そんな事を書いたのでせう私の畫を御所望の由承はりまして恐縮致します書もたのまれ、ば書^原恥を忘れて書きますがもとものと氣の向いた時か夫でなければ筆と墨をつきつけられた時に限るのですから只今と申す譯には参りませんがそのうち機會があつたら變なものでも御笑ひ草に御覽に入れませうあなたの御病氣はまだよくならないのですか談話を禁じられるやうでは嘸かし淋しいだらうと思ひますし又さう輕いやまひとも思はれませんどうぞ御養生を大事になさつて御全快になる事を切望致します 以上

五月二十五日

夏目金之助

四五三

水落露石様

座右

四五四

六三

五月三十日

午後六時—七時 牛込區早稲田南町七番地より

伊豆國修善寺菊屋津田總次郎へ (三四)

また修善寺へ行つたさうです。ね湯に入りながら繪をかいて楽しんでゐるのは好い心持でせう。此間不折に會ひました話の様子によると達磨の繪などは寧ろ得意らしく見えます。氣の毒です。あの鼻を曲げた處で繪が上手にならない以上役に立たないからさうか、と云つて歸りました。吳春は燕村を學んだのですか。夫であの人物のかき方が始めて合點行きました。あれは大變好い畫と思ひます。あなたが何遍も見てゐるうちには好になると思ひます。寺田は見るとすぐ賞めました。私はあんなものを見てあるくがあれ程のものにはまだ出あひません。海だか湖だかある繪を御注意通り直しました。大變好くなつた積です。今度見て評價して下さい。私は軸にして残して置かうかと考へてゐます。面白い畫をかいて持つて入らつしやい。左様なら

五月三十日

夏目金之助

津田青楓様

寺田は不折の畫を深川邊の活動寫眞の看板よりまづいと云つてゐました、當人が聞いたなら怒る事と思ひます

六四

六月二日

午後三時—四時 牛込區早稲田南町七番地より

出雲國鏡川郡出西村全昌寺鬼村元成氏へ (三)

長い手紙を下さいましてありがたう。病氣は如何ですか。病氣の時は可成醫者に診て御貰ひなさい。國へ歸つたといふから親の處かと思つたら生れた家ではないのです。ね。夫でもさうして靜養の出来る處があるのは結構です。早くよくなつて又僧堂の飯を御上がんなさい。神戸に祥福寺といふ寺のあるのは何の邊ですか。あんな雜沓した處より出雲國の方が修業には好いかも知れません。寫眞も拜受しました。中々姿勢がよろしい。夫から寫眞で見ると中々好男子です。然しあゝした姿勢を見ると何だかわざ／＼拵えて旨く出來過ぎてゐるやうにも思はれます。私はあなたの顔の外にまだ

四五五

あなたの郷里のあなたのゐる御寺の景色を想像して何んな處だらうと思つてゐます 姉さんは大根おろしを作つてくれる人だからあんまり悪口をいはないがよろしい 寺だから廣くて自分の室もあつて結構です 先は右迄 勿々

六月二日

夏目金之助

鬼村元成様

六五

六月二日

午後三時—四時 牛込區早稲田南町七番地より

清國湖北省沙市日本領事館橋口貢氏へ (三九)

拜啓梅雨の季節になつたと見えて雨滴の音がしきりにしますあなたの居る方は如何ですか 此間は寫眞をありがたう蘭の鉢か何か眼につきまます、私も此春九花蘭といふのを買つて支那鉢に植ゑて其香をかぎました、此間武者小路にあつたらあなたの話をしてゐました

私は蕪村の畫を買ひました(十二圓で)私は好い畫だと思つて毎日眺めてゐます人は偽物といふかも知れませんが私は一向頓着なしに楽しんでゐます。印材二顆は御報知があつても容易に届

かないので紛失したと思つたら漸つと來ましたありがたう 君からは時々色々なものを贈つてもらふ丈で御禮も何もしないで甚だ濟まない氣がします

もうそろ／＼東京へ一度歸つて見たらどうですか公務上さう自由もきゝませんか。山座は氣の毒な事をしましたねあの男はもと同級でした話がした事は一度もありません

私は金を五六萬圓持つて支那を漫遊して好きなものを買つてあるきたい 五葉君には久しく會ひません つかあなたの留守宅から私に書を書いてくれといふ註文で變てこなものを書いたのを記憶してゐますがいつかあれを書き直したいと思ひながらついまだ其儘にしてあります。支那人の畫で五拾圓位ぢや中々面白い畫は手に入らんでせうね 其位で好いものを買はうといふ蟲の好い考を持つてゐる私は東京では精々奮發して拾圓位です呵々
此位にして置きます

六月二日

夏目金之助

橋口貢様

六六

六月二日 牛込區早稲田南町七番地より

埼玉縣秩父郡樋口村四方田美男氏へ（五）

此間はあなたの文章（新聞に出てゐる）を拜見しました勿論御承知の事と思ひますがあれは新聞向きですねしやれたものですけれども藝術的なものではありません、あなたが私によこす手紙の方がよろしい。然しあなたのやうな筆を執る事の好きな人が新聞社に這入る事が出来たのは仕合せです充分働らいて御父さんや兄さんから認められて労働をしないで好いといふ許可を得るやうになさい。歩いてゐる間に本をよんだり文章を書いたりするのは大變です好だから出来るのです、私などには出来ません。私の書物で好いものはありませんあなたは行人をよんださうですが夫で澤山ですから外の人のものを御讀みなさい手の届く限り何でも御讀みなさい、時間の許すかぎり。あなたの新聞に石坂養平といふ人が何か書いてゐましたね、あれは私の知つた人ではありませんが、もし會へるなら御會ひなさいさうして話を御聞きなさい 以上

六月二日

夏目金之助

四方田美男様

六七

六月九日 午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より

府下巢鴨町上駒込三百三十四番地野上豊一郎へ（六）

拜復 御聞合せの畫を出す一件は貴説の如く願下げにして下さい 以後もそんな事をいつて來たら一應問ひ合せた上にして下さい 私は咽喉が急にはれて熱が出ました三十八度五分程出ました夫で久し振に床をとつて寐てゐました頭と咽喉を氷でひやしました 今朝は思ひ切つて又水浴をやつてやりました まだ食氣がなくていけません
右迄 勿々

六月九日

金之助

白川様

六八

六月九日 午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より

福島縣信夫郡瀬上町門間春雄氏へ(さ)「はがき」

四六〇

さくらんぼうをありがたう御座います一二日風邪で寐てゐましたので御禮を出しませんでした以上

六月九日

六九

六月九日 午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より

出雲國簸川郡出西村全昌寺鬼村元成氏へ(三)

祥福寺の繪葉書をありがたう御座います 私は今咽喉がはれて熱が出て床を敷いて寐てゐますもう直りかけの所ではありますが退儀だから長い手紙は書けません 私の手元に「三四郎、それから、門」この三書を縮刷にしたのが一部餘分にありますから夫を今日小包で送りますからもし御氣に召したら御讀み下さい。あなたのやうな若い人がそんなひどい胃病にかゝるのは一寸變ですが病名が分りますか出来るなら専門の醫者にみてもらふといゝが田舎の事だから仕方がないでせう よく療養をなさい、夫から御寺に何も讀む本のないのも變ですが是も焚けたのなら致し方もない 然し景色がよくつて靜だからそんな所でも味つて御樂しみなさい 以上

九月六日

夏目金之助

鬼村元成様

祥福寺は大變よさうな所ですな今度あちらへ行つたら見に行きませう

七〇

六月十五日 午後八時—九時 牛込區早稲田南町七番地より

出雲國簸川郡出西村全昌寺鬼村元成氏へ(四)「はがき」

あの本は返さないでよござんす、鶉籠の縮刷は其うち本屋から取り寄せて上げませう

六月十五日

七一

六月二十五日 午後六時—七時 牛込區早稲田南町七番地より

四六一

麴町區内山下町一丁目一番地東洋協會内森次太郎氏へ(二七)

拜啓先刻は御光來被下ました處生憎原稿を書いてゐましたのでまた來るとかで御歸りになつたさうですが甚だ御無禮を申上て済みません近頃は午前中に原稿を書く癖がついてゐるので夫を怠たると心持がわるくつて仕方がない爲め時々原いふ失禮を敢てするのでどうぞ御勘辨を願ひます 今日ほことに面會日の木曜だから猶恐縮致します平日でも午後なら大抵在宅で時間も御座いますからもし御閑があつたら御出を願ひます 以上

六月二十五日

夏目金之助

森 圓月様

七二

六月二十五日

午後六時—七時 牛込區早稻田南町七番地より

高田市横町森成麟造氏へ(二〇)

拜啓越後の笹餅といふものは始めてですあのまゝ一つ食べました夫から砂糖をつけて二つ食べましたあとは家のものがみんな食べましたありがたう御座います大して美味とは思はれませんが

珍奇なものには相違ありません夫から越後からきたのだから猶うまいのでせう御禮を上げやうと思つてつい忘れて居ました済みません、 以上

六月二十五日

夏目金之助

森成麟造様

七三

六月二十八日

午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

出雲國鏡川郡出西村全昌寺鬼村元成氏へ(五)

此間は御地の名産の昆布の砂糖づけを下さいましてありがたう御座います、をばさんに宜敷仰つて下さい あなたの病氣はどうですか胃擴張には運動がわるいやうに思ひますが醫者は何といひますか 虞美人草の縮刷を本屋から取寄せましたから一冊上げます、是はよんでもつまりませんが折角だから小包で送るのです 御養生を專一に願ひます 以上

六月二十七日

夏目金之助

鬼村元成様

四六四

あゝ號を書くのを忘れた露塔でしたかね。失敬。夫から習慣はどうでもいゝが、自分より年上のものへ手紙をやる時には自分の號はかゝないのが禮になつてゐます、たゞし宛名のとさは書くのが尊敬を表する事になるのです。然し今の世だから實際はどつちでも構ひません。

七四

七月七日 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より

淺草區小島町十四番地北島英一氏へ(二)

拜復突然御書面をいたゞきまして拜見致しました私の作物の御氣に入らぬ處はよく私にも解つてゐるやうです近頃はそんな書方もしない積で居ります

「それから」を御讀み下さつたさうでありがたう御座います。御氣に入るやうな處が少しでもあれば満足の至です。元來舊作を縮刷にして出すのは別に藝術上の良心に許可をうけたと申す譯ではなく本屋に勧められると幾分か慾心が萌すからであります私は今も小説を書いてゐますが自分の書いたものは私生兒のやうな氣がします。自分には可愛けれども人中へ出すのはいやに候。

若し金があれば縮刷などをして恥を二度かく愚は致さぬ積に候

只今も小説を書いてゐますので午前はふさがつて居りますが午過ぎなら御目にかゝれます木曜の午後なら面會日ですから猶好都合です

あなた「が」卒直（原）に申される通り私も露骨な事を申上りますが私は實はあなたの名を存じませんでしたどこの新聞へ小説を書いて居らつしやいますか甚だ失禮のやうですがあなたを承知致さない故一寸伺ふのであります柳川君は知人であります。御面會の節はよろしく願ひます 以上

七月七日

夏目金之助

北島英一様

七五

七月十日

午後八時—九時 牛込區早稻田南町七番地より

淺草區小島町十四番地北島英一氏へ(三) 「はがき」

拜啓高著誰が子正に頂戴ありがたう存じます只今多忙で一寸よめませんが閑を得て拜見致したいと存じて居ります御禮まで 匆匆

四六五

七六

七月十一日 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より
牛込區市ヶ谷船河原町十二番地木村恒氏へ (三)

拜啓御手紙は拜見しました朝日へ入社^原の御希望で松山君に御面會のよし、夫から今日社會部長に會つて私と關係のある事を云つて差遣ひないかとの御言葉ですが事實を仰しやるに何の差支のあらう筈はありません、然し私の門下生だといふ事があなたに取つてどれ程の利益になるか其處は保證出来ません私は編輯上何もしてゐないのですから。のみならず黨派的な意味に解釋されでもすると却つてあなたの迷惑にならないとも限りません。私は社會部長からあなたの事を聞いてきた時はあなたに都合のいゝ返事を出來る丈しませう、然し此方から社會部長に電話であなたを依頼するのはいやです。やつても構ひませんが夫程役には立つまいと思ひますから 以上

七月十一日

夏目金之助

木村 恒様

七七

七月十一日 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より
小石川區高田老松町四十三番地津田龜次郎へ (三五)

この前の木曜には岡君と二度さて下さつたさうですが二度とも留守で甚だ申譯がありませんあの時は宅にゐるのが厭になつたので面會日にも拘はらず飛び出して漂泊者の如く方々歩いたので

す 雜誌の切抜拜見あんな女房がありますかね少し誇張ぢやないでせうか

私は自分の書いた山水と黒猫と夫から酒渴愛江清の五字一行ものを表装しました今度見て下さい、黒猫が一番わるいやうです 酒渴は中々上出來です 山水は今かけてあります、蘭亭といふ盲目詩人の書も懸けてあります うまいものです 以上

七月十一日

夏目金之助

津田 青楓様

七月十三日 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より

京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内山本松之助氏へ(二三)

拜啓久々御無音奉謝候此間一寸電話を御宅へかけた處御旅行中で今日頃御歸りといふ御返事でしたから一寸用事申上ます、兩三日前志賀直哉君(當時雲州松江に假寓小説の件をかねて上京)見え、實は引き上げた小説の材料が引き受けた時と違つた氣分になつてもとの通りの意氣込でか
けな^原た^原な^原た^原た^原から甚だ勝手だがゆるして貰ひたいといふのです。段々事情を聞いて見ると先生の
人生觀といふやうなものが其後變化したため問題を取り扱ふ態度が何うしてもうまく行かなくな
つたのです、違約は勿論不都合ですが、同君の名聲のため朝日のためにも氣に入らない變な
ものを書く位なら約束を履行しない方が雙方の便宜とも思ひましたが、多少私の責任もあります
し、又残念といふ好意もあつたので再考を煩はしたのです、所が今朝口約の通り返事がきて好意
は感謝するが今の峠を越さなければ筆を執る譯に行かないといふのです。それで私の小説も短篇
が意外の長篇になつてあれ丈でもう御免を蒙る間際になつてゐる際ですからあとを至急さがす必
要があるのですが御心當りはありますまいか。如何でせう。私は先年鈴木にも高濱にも頼まれま
したが兩氏とも今となつて都合つくや否は疑問であります、小川氏も間接に相談はありましたが

あの人のものは如何かと存じます、徳田君は今東京にゐないやうです、夫に途中で行きつまる恐
があります。中勘助が銀の匙のつゞきを書いてゐるやうですが、あれなら間に合ふかも知れませ
ん、兎に角私の責任問題ですからいざとなれば先生の遺書の外にもう一つ位書いてもいゝですが
どつちかといふとあれで一先づ切り上げたいと思つてゐますから御邊御含みの上一應御熟考を煩
はしたいと思ひます。先は用事迄 以上

七月十三日

夏目金之助

山本笑月様

七九

七月十三日 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より

麻布區三河臺町二十七番地志賀直哉氏へ(二三)

御書拜見どうしても書けな「い」との仰せ残念ですが已を得ない事と思ひます社の方へはさう
云つてやりました、あとは極りませんが何うかなるでせう御心配には及びません、他「日」あな
たの得意なものが出來たら其代り外へやらすに此方へ下さい先は右迄 匆々

七月十三日

四七〇

志賀直哉様

夏目金之助

八〇

七月十四日

午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より

本郷區駒込西片町十番地呷柳都太郎氏へ(三〇)〔はがき〕

御注意ありがたう、私の見たのは房州の何處だらう、金谷とか那古とかいふ邊かも知れない、然しあれは想像ではありません、たしかに見たのです。沖の島とか鷹の島とかへ行けばあんな所がありますか一寸教へて下さい

八一

七月十六日

午後六時—七時 牛込區早稻田南町七番地より

小石川區白山御殿町百〇九番地齋藤方太田正雄氏へ(二)

拜啓南蠻寺門前一冊御惠贈ありがたく御禮を申します、此前と同様に大變好い表装ですなかの挿畫も面白う御座います、何しろ書物を開けた丈で字はまだ読みませんから肝心の御作については申す事もなくて甚だ本意ですが其うち閑を得てゆるりと拜見する積で居ります。兎に角不取敢御禮丈をいはないと氣が濟まないのので一通差し上げて置きます 以上

七月十六日

夏目金之助

太田正雄様

八二

七月十七日

午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より

府下代々木山谷二百九十五番地鈴木三重吉へ(六三)〔速達便〕

拜啓 昨日は失敬 短篇集を出す事社に相談せし處賛成の由返答有之就いては君一つ十回もしくは十二回位のを直ぐ着手して出来る丈早く作つてくれ玉へ、其上あとへ出る二三の人をこしらへてくれ玉へ。それはむづかしく云つても仕方がないが無暗に親しいものがつゞかないで其間に變化のある方が面白くもあり又僕の立場からいつてもよろしい、兎に角君のは僕の終る前に

四七一

間に合ふやうにしてくれ玉へ 以上

七月十七日

鈴木三重吉様

夏目金之助

八三

七月十八日

午後四時—五時 牛込區早稲田南町七番地より
府下代々木山谷二百九十五番地鈴木三重吉へ (六三)

啓上 私の小説はまあ百回といふ見積ですが私の事だから(夫に社の方で可成長くしてくれとの注文ですからもう少しは出るかも知れません)然し君の方ではまあ百回を目やすに置いて絞り出すなりひり出すなりして貰ひたいと思ひます。未明君の返事が来たら教へて下さい、其あとが幹彦俊子では少々つくやうですが其處へ何かはさみたい 然しそんな事をいつてゐる場合でないから何でもいゝとして順序はこちらで變化してもよからうと思ひます。君にも氣の毒だが精々奮發し「て」やつてもらひたい例の通り凝るのは却つていけない只いゝ筋をつらまへてぐいゝ書いた方が數倍面白からうと思ふが、然し是は私の兎や角いふべき筋でないたゞ參考に申上げる迄

です先は御禮旁御返事迄 勿々

七月十八日

夏目金之助

鈴木三重吉様

八四

七月十八日

午後十時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より
府下代々木山谷二百九十五番地鈴木三重吉へ (六四)

拜復今朝七時發の御手紙拜見 秋聲白鳥兩君ともに結構御頼原ひ下さい、小川君引受のよし是又結構 私は武者小路に頼みましたまだ返事がありませんが、然し出来るなら武者小路氏と外に一名里見とか小泉とか長與とかいふ人を入れるやうに頼んだのです、多分むづかしいかも知れませんが、夫から彌生子は異存はありませんが亭主を置いて細君ばかり頼むのも妙ですな 白川の此前のものはわるくはありませんよ。然し少し人數を勘定してかゝらないと無暗に多くなると困るから其邊もよく胸に疊んで置いて下さい 以上

七月十八日夜十時

三重 吉様

金之助
四七四

八五

七月二十日

午後十時—十二時 半込區早稲田南町七番地より
府下巢鴨町上駒込三百二十九番地野上豊一郎へ(六三)

久しく御無沙汰を致しました 借今度朝日の小説欄で私のが済んだら諸家の短篇十回もしくは十二回のを連載する事になりました夫で事が急なので狼狽して方々に依頼しました處 女の人も一二名あつた方が色彩になつてよいと思ふのですが八重子さんは何か書いてくれないでせうか。もう一人田村俊子さんです。一度に原稿を集める必要もありませんが編輯上は順序をとゝのへる點に於て早く頂きたいのです。八月五日から十日迄の間に出来ませうか。(もし書いてくれるとしたら。右につき一寸八重子さんの考を聞いて下さいませんか 以上

七月二十日

夏目金之助

野上豊一郎様

八六

七月二十日

午後十時—十二時 半込區早稲田南町七番地より
淺草區田原町三丁目十番地久保田萬太郎氏へ(二)

拜復小宮君から申上げた事につき早速御承諾の御返事をいたゞき満足至極に存じます。實は一
人十回もしくは十二回位の見當で勘定をつけて居ります故どうぞ其積で願ひたいと思ひます。又
此著い所を御せき立て申しては濟まん事と存じますが原稿はいつ頃迄に出来ませうか。實は今日
迄引き受けてもらつた人のは大抵八月五日もしくは十日迄の約束になつてゐます。私の方では順
順に載せるのですからさう一度に原稿は入用でもありませんが實は讀者にも作者にも都合よく順
序をならべたいので斯んな御無理を申上げる次第ですがどうぞ外の人なみに願はれ、ば結構と存
じます。尤も編輯者の都合の好いやうにばかりも參りますまいから貴君の方では極早い所いつま
でに御届下さいませうか失禮ですがもう一度御返事を願ひます右迄 匆々

七月二十日

夏目金之助

久保田萬太郎様

四七五

八七

七月二十二日 使ひ持参 牛込區早稻田南町七番地より

府下巢鴨町上駒込三百二十九番地野上豊一郎へ (六三)

拜啓本日の時事新報に岡田平太郎氏四男勝氏死去の報あり明二三日午前十時谷中齋場にて葬式の由なれど私は通知も受けぬ上差支ありて行かれぬ故 もし君が行くなら封入の名刺持参其旨受付に御話し願ひたく 早速用事迄 勿々

七月二十二日

野上豊一郎様

夏目金之助

八八

七月二十二日

午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より
府下代々木山谷二百九十五番地鈴木三重吉へ (六五)

色々御骨折ありがたう、今日迄の経過左に

鈴木

武者小路 (八月五日乃至十日)

幹彦 (同)

未明 (同)

俊子 (同)

里見醇 (九月頃承諾)

久保田 (承諾 原稿着日まだ不明)

青木 (八月五日乃至十日)

谷崎 (九月十日)

八重子 (まだ返事なし)

後藤 (まだ返事なし)

七月二十二日

金之助

三重吉様

七月二十二日

午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より

京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内山本松之助氏へ(二四)

拜啓私の小説は八月へかゝります。次の短篇作家は一々御相談のひまがなかつたので私の方でみんな極めました。断わられるかも知れないと思つてゐたらまづみんな承諾の形になつたのもその原因の一つです。何うぞあしからず。

別紙に其人名と順序を御目にかけます。順序をよくしないと変化がなくて面白くあるまいと思ひますから専断でさう極めて置きました。いざといふ場合ひ多少の變化は免がれないでせう。豫告に是等の人の姓名をずつと並べるか又はだまつてゐて不意に、明日から誰と断つて行くか夫は考へものでせう。然し私が短篇をいくつも書く筈の處意外の長篇になつたのでこれ丈でやめるといふ事は其中に一寸断わつて置いて頂きたいと思ひます

七月二十二日

夏目金之助

山本松之助様

七月二十二日

午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より

京橋區元數寄屋町對鶴館大倉一郎氏へ

あなたの御手紙を拜見しました。肯定否定の議論も拜見しました。あの議論はあなたの心持を書いたものとして見ればあれで結構です。然し人に見せるとなると表現が不充分のやうに思はれます。夫から俳句も拜見しました中々面白う御座います。あなたは新傾向ですね。然し窮屈の先の先まで行つた新傾向でないから何處かに餘裕があつてよろしいと思ひます。私は舊派です。十八世紀の俳句の形式がすぎです

七月二十二日

夏目金之助

大倉一郎様

七月二十八日 午後一時—二時 牛込區早稲田南町七番地より

芝區三田四國町二番地一號小宮豊隆へ(二二五)

四八〇

拜啓中央公論の脚本の批評を時事で拜見、大體の上賛成ですが、出來榮の等級がついてゐないからどれもこれも同程度に下らないやうに思はれて好い作者に氣の毒です。

白鳥のは及第(但し尻がまだあるべき筈のを切つてしまつた感あり)

雨雀 是も及第 恐らく自然で一番まとまつてゐるだらう

吉井勇 及第 是には一種の面白味がある。

秋聲 まあ及第。脚本よりも小説にすべきもの、

中村吉藏 落第 あゝ拵らえた痕迹が見え透いちや氣の毒だ

長田秀雄 落第。是は君の評通り、たゞ劇的效果ばかりねらつて内的の力なし

田村俊子落第、あんなものは芝居にならぬのみか男子が屈辱を感じるやうなもの

木下柰太郎 落第 つまらぬ事夥し

島村抱月 落第 河童の尻

武者小路 及落の中間 いつもより悪いかも知れず

久保田萬太郎 正に落第 ごちや〜ごちや〜

上司小劍 落第 一體どかかどうしたといふのだ

小山内薫 落第 是が芝居になる積りか、積りならやつて見る。

以上

七月二十八日

夏目金之助

小宮豊隆様

九二

七月二十八日 午後一時—二時 牛込區早稲田南町七番地より

府下青山原宿百七十番地ノ十四號森次太郎氏へ(二八)

君の方に好い家はありますか

拜復暑中御變もなく結構です霽月は尋ねてくれましたあの結婚問題も聞きました私は血族でも構はんと思ふがどうですかね

私の小説を暑いのに一度に読んで下さるあなたは私にとつてありがたい御得意です、御批評も承りました、何だか一揚一抑一擒一縱といった風の書き方で悪口だか讚辭だか分りませぬね早く小説を書いてしまつて外の事がしたいと思ひます霽月から明月の二幅を分捕つたさうぢや

四八一

ありませんか今度御見せなさい、取りはしませんから 以上

七月二十八日

夏目金之助

森 圓 月 様

九三

七月二十八日 牛込區早稲田南町七番地より

京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内山本松之助氏へ (二五)

拜復御心配をかけてまことに相済みません私は回数に間違をした覺がないのですが百二百四とつゞけて見るとつゞく様ですから全く私粗忽から生じた事と存じます、恐縮致します、百四を百三と御訂正の上御掲載願ひます、

猶其以後の分は一回づゝぐれる事になるますが私の方は間違なりに進行致させますからあなたの方で一つづゝ御直し下さる事を希望致します、私が正すと却つて混雜するかと思ひますから序に申上ります里見武者小路、野上久保田後藤悉く承諾致しました、原稿料をさめずに頼みましたは是は一例一體に同じにするか等級をつけるか何だか面倒になりさうです、比較的好的稿料を

拂へば一例不別で差支ないでせうがさうでないと思ひます。それは追つて御相談致します何しろすぐ金に替へなくては困る人が多いやうですから其邊はあらかじめ御承知を願つて置きます、

先は御返事迄 匆々

七月二十八日

夏目金之助

山本笑月様

九四

七月三十日 午後五時—六時 牛込區早稲田南町七番地より

愛媛縣温泉郡今出町村上平太郎氏へ (二〇)

此間は暑い所を御出恐縮しました生憎客が来てゐてゆつく「り」御話も出来ず失禮しました其節御話のあつた明月和尚の無絃琴といふ額は昨二十九日着きましたすると其處へ偶然圓月君が同和尚の雙幅をもつて見えましたが無絃琴はうまいと思つてゐたがあの八字を見るととても及ばないといふ事に気がつきました不動如の三字などはことに見事です。時にあの額の價を伺ふのを忘れ

てゐました爲替で送りますから教へて下さいませんか。梧竹の圖南といふのをはづしてあれを懸けかへて眺めてゐます、御令嬢の事は考へてもうまい考は出ませんあなたの方が材料をいくらでも持つてゐるのだから仕方がないやうにも思ひます、まあ他人の私から云へば無責任かも知れないが血族でも差支ないと思ふのです 以上

七月三十日

夏目金之助

村上霽月様

九五

七月三十一日

午後一時—二時 牛込區早稲田南町七番地より
府下代々木山谷二百九十五番地鈴木三重吉へ (六六)

御手紙拜見 僕のはもう十回乃至十五回つゞきます。武者小路君は清書をしない丈で書き終つたと云つて來ました、それを一回に廻すやうに交渉しました、多分承諾と思ひます、小川君のは何うなつてゐるか知れませんが約束通れば君より先にしてもよろしう御座います。あまり固くならないであつさりやつて下さい 三十圓は全部出來上つた上で返してもらへば澤山です 以上

七月三十一日

夏目金之助

鈴木三重吉様

このあつさでは誰でもへコタレさうですがまあ受合つたのだから發奮して片付けて下さい

九六

八月一日

午後十時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より
神田區駿河臺鈴木町ケール氏内久保勉氏へ

拜啓暑いのに出發の御仕度や何やかで嘸御忙がしい事と存じます
此間ケール先生に呼ばれた時は是非新橋へ送つて行くやうな事を申しましたが後から考へて見ると先生の迷惑だといふのことにさら我を通すのも餘計な事だと氣がつきましたからやめに致します。どうぞあなたから先生へよろしく云つて下さい。夫から私のボンゴアイアージを先生に傳へて下さい

あの時先生の御依頼になつた告別の言葉はたしかに引受けました。社の人と相談十二日に出す

事にしてあります。私は其前に原稿を書いて社へ送る筈になつてゐます。是も先生にさう云つて下さい

先生は自分では淋しくないやうな事をいつてゐられるやうですが私共がはたから見ると何だか淋しさうな感じがしますどうぞよく世話を上げて下さい 以上

八月一日

夏目金之助

久保 勉様

九七

八月一日

午後十時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より

松江市殿町百七十四番地大谷正信氏へ (三三)

拜啓 あついで事で御座います私原は早から晩「まで」サル股一つでゐます御郷里の方は多少涼しい事と存じます、御招きにあづかりありがたう存じます私も山陰は始めてですから行つて見たい氣がしますが参られるかどうか分りません 若し参られるやうでしたらどうぞ御案内を願ひます 今日小説をやつと片付ました百十回程になりました あついで時も寒い時も執筆は退儀です 折角

御自愛を祈ります 以上

八月一日

夏目金之助

大谷 繞石様

九八

八月三日

午後一時—二時 牛込區早稲田南町七番地より

府下代々木山谷二百九十五番地鈴木三重吉へ (六七)

拜啓原稿料の事は社と協儀原の上略まとめました、各家均一で一回四圓の積です、小川君の原稿はまだ参りません、いつ寄こす積なのですか、同君が寄こさなければ武者小路君のあとを君に願ひます、私のは百十回程で仕舞になります、二三日前書き上げました 以上

八月三日

夏目金之助

鈴木三重吉様

八月四日 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より

府下代々木山谷二百九十五番地鈴木三重吉へ (六〇) 「はがき」

小川君原稿二十日迄に屹度間に合ひ候へば二番目に間に合ひ候、君は三番目に可相成候、同君の原稿は二十日に小生迄チカに御送願はれる様乍御面倒御依頼願上候 以上

八月四日

一〇〇

八月九日 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

清國湖北省沙市日本領事館橋口貢氏へ (四〇)

拜啓 東京も非常なあつさです雨が降らないのでたまりません其處へ獨乙と露西亞の戦争で猶あつくなりす此先どうなるか分りませんが何だか新聞は一號活字ばかりです偕御惠贈の拓本は頗る珍らしく拜見しました あれは古いのではないでせうが面白い字で愉快です、私は今度の小説の箱表紙見返し扉一切合切自分の考案で自分で手を下してやりました其内の表紙にあれを應

用致しました出来上つたら御目にかけてませう 私はあなたから時々何かいたゞく丈で此方からは何も上げた事がない恐縮してゐます 先は御禮迄 以上

八月九日

夏目金之助

橋口 貢様

一〇一

八月十日 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より

京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内山本松之助氏へ (二〇)

拜復豫告は御都合でよろしく願ひます、武者小路君の稿料御手数数でした、ケイベルさんの事原稿御約束の如く十一日組込に間に合ふやう差上ます六面は夫程でもないから戴せていたゞけるでせう。ケイベルさんは多分立つてせうもし延ばすやうな事があつたら電話で申上ます 以上

八月十日

夏目金之助

山 本 様

八月十日 牛込區早稲田南町七番地より

牛込區矢來町三番地新潮社へ (二)

最近新作家とはどこで區切をつけて好いか分りませんから一寸困りますが小生の讀んだうちで人の評判に上らないもの二三を申上ります

(一) 七月の我等巻頭にある萬造寺齊君の「斷片」

(二) 白樺にある長與善郎君の「盲目の川」といふつゞきもの

(三) 八月の新小説にある濱村米藏君の「むくろ」

以上の外にまだありますが最近新作家の部に入れていゝかどうか分りませんから省きます。夫れから以上三篇はいゝところ丈を見て例に擧げたので缺點を云へと頼まれゝば隨分云へもしませうからそれは御承知を願ひます。又私はすべての雑誌を讀まないから自然不公平になるかも知れませんが其積りでゐて下さい。夫れから讀んだ時は面白いと思つても咄嗟の場合に急に思ひ出せないものもありますからそれも御斷りを致して置きます。

概していふと近頃は小説をかく人がみんな器用になつて一般の水平が高くなつたやうです。私

は是丈云へば特殊の例を擧げないでも澤山だと思ひます。私にはかうした概括的の意見の方が却つて讀者の參考になるやうに考へられるのですが何うでせう。つぎに作家が各自行きたい道を勝手に歩いてゐる傾向も見えるやうですが是も大變結構な事ではありませんか。「うつし」

八月十二日 午後四時—五時 牛込區早稲田南町七番地より

府下巢鴨町上駒込三百二十九番地野上八重へ (七)

拜啓玉稿死たしかに届きました早速社の方へ送つて置きました武者小路君の今書いてゐるのが都合で死といふ名に改まりました、あなたのも死ですが私の豫定だと二つの間に大分外の人を入れる積だからいゝが萬一都合で二つの原稿がつゞいて出るか又は一つ二つ間を置いて出る場合は少々變ですが何とか題の變更しやうはありませんか、

原稿料は社の方から二三日うちに御届する筈です、一回四圓ですさう思つて下さい
御父さんの病氣はどうですかいつ國へ立ちますか、先は御禮旁御照會迄 勿々

八月十二日

夏目金之助

野上八重子様

四九二

一〇四

八月十三日

午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より

府下澁谷百二十二番地小泉鐵氏へ (四)

拜復明日御出の趣承知致しました御待ち申します、然し今日のやうな天氣なら別に無理をして約束通りになさらないでよろしう御座います、何うせ家にゐるのですから、昨夜郵便函を開けるのを忘れて今朝御手紙を見たので御返事が後れました今夜中に此手紙があなたの手落ちれば幸いです 以上

十三日午前十時

夏目金之助

小泉 鐵 様

一〇五

八月十三日

午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より

愛媛縣温泉郡今出町村上牛太郎氏へ (二)

拜啓先日御送被下候明月和尚の額代十二圓小爲替にて差出候間御落手願上候昨十二日夜より暴風雨にて久し振に地面もうるほひ冷氣加はり申候御地暑氣如何にや時節柄随分御攝養可然と存候先は當用迄 勿々

八月十三日

夏目金之助

村上 霽 月 様

一〇六

八月十五日

牛込區早稻田南町七番地より

大阪市北區中之島朝日新聞社内島居赫雄氏へ (四)

拜復ケーベル先生についての御高見承知しましたが私の考ではもうそんな餘地はないやうに思はれますから云ひ出すのは已めます、今年上田敏君が上京來訪の砌そんな話を持ち出して自分で勧誘に出かけるやうな事を云ひましたから私は賛成しました然るにケーベルさんに聞いたら上

四九三

田は来ないといひました其席に深田君がゐてあれは問題にならないと云ひました(尤も上田君の考は同志社と關係をつけさせる積りだつたのださうです)そんな譯ですから斷られるのは略わかつてゐるやうですからまあ已めて置きます 以上

八月十五日

鳥居様

夏目金之助

戦争と暑さで大變ですぬ御自愛を祈ります

一〇七

八月十六日 午後六時—七時 牛込區早稲田南町七番地より

本郷區駒込西片町十番地笹川種郎氏へ(二二)

拜啓久々御無沙汰に打過ぎ申譯がありません 却説今朝の新聞にあなたが盲腸炎の事が出てゐましたので吃驚しました ちつとも知らなかつたものだからつい御見舞もせずに濟まん事を致しました 経過の事はちつとも出てゐないので丸で判断が出来かねますがもう峠を通過して順當に

御回復期に向はれてゐる事を切望致します、參上致す筈ですが却つて御邪魔になるとわるいと思つて御遠慮致します 草々

八月十六日

夏目金之助

笹川臨風様

一〇八

八月十七日 午前十時—十一時 牛込區早稲田南町七番地より

淺草區田原町三丁目十番地久保田萬太郎氏へ(三)

拜啓雨以來少々涼しくなりました御變りも御座いませんか、さて先達て御願ひした小説はたしか八月十五日迄の御約束と覺えてゐますがまだ出来ませんでせうか無理を申上げて御急き立てして濟みませんが私の方でも其日をあてにしてゐますので御通知がないと不安になりますから一寸御伺ひ致します 以上

八月十七日

夏目金之助

久保田萬太郎様

机下

四九六

一〇九

八月十八日 午前九時—十時 牛込區早稲田南町七番地より
下谷區谷中天王寺町三十四番地田村俊氏へ(二)

拜復もあつゝ所を御面倒を願つて相済みません、私が直接に御依頼をする筈でしたが御住所をよく存じませんのと鈴木の方が御懇意だといふ意味から間接に御願ひ致した譯であります、鈴木は八月五日乃至十日にあなたから原稿が届く約束だと申しました、夫から十三日迄延期を申し込まれたと申しました十六日に鈴木に會つて間接では却つて困るから直接に返事が聞きたいと申しました、二十日迄位よからうとは彼一存の考かと存じます、彼はその事に就いて一言も私には申しません。二十二日迄に御出来になるならそれ迄でよろしう御座いますからどうぞ間違なく御届下さいまし、甚だ勝手がま「し」う御座いますが私の方にも夫々手筈がありますから失禮とは存じますが蛇足とは知りながら念を押して置きます。鈴木は都合によつてあの中へは加へない事にしました 以上

八月十八日

夏目金之助

田村俊子様

一一〇

八月二十二日 午前十時—十一時 牛込區早稲田南町七番地より
小石川區高田老松町四十三番地津田龜次郎へ(三六)

愈圖案が出来上つたさうです、面白いだらうと思ひます見に行きたいのですが何だか氣分がわるいので出る氣になりません決して同情がないのでもありませんたゞ動くのがいやなのです何うぞあしからず思つて下さい 日本美術院の演説は断りました又いつか何處かで駄辯でも弄する時には聞きに来て下さい 右迄 草々

八月二十二日

夏目金之助

津田青楓様

四九七

八月二十三日 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より
下谷區谷中天王寺町三十四番地田村俊氏へ(三)

啓玉稿十七の娘只今頂だい致しました御暑い所を御急き立て申して濟みません 稿料は二三日中に社から届けさせる事に取計ひます一回四圓の筈になつて居りますからどうぞ其御積で御不承下さいまし

夫から掲載の順序はどうぞ私に御任せを願ひたいと思ひます是は讀者のため作家のため私の方で好きやうに取計ひたいのですから。

先は右御禮かたぐ御挨拶迄 勿々

八月二十三日

夏目金之助

田村俊子様

八月二十四日

午後四時—五時 牛込區早稻田南町七番地より
神田區南神保町十六番地岩波茂雄へ(二)

啓昨日は失禮其節一寸御話申上候見返しの裏へつける判は別紙のやうなものに取極め申候故不取敢入御覽候可然御取計被下候はゞ幸甚 草々

八月二十四日

夏目金之助

岩波茂雄様

八月二十五日

午前九時—十時 牛込區早稻田南町七番地より
出雲國鏡川郡出西村全昌寺鬼村元成氏へ(六)

拜啓あなたの病氣は段々よくなるさうで結構です早くよくなつて神戸へ入らつしやい私は大して變りはありませんまあどうか斯うか生きてゐます、戦争が始まりましたたまにはあんな事も経験のため好からうと思ひます歐洲のものどもは長い間戦争を知らずにゐますから。あなたはあつゝ所にゐて寐てゐますかあなたの方からいへば寐るのも禪でせう、私は精神がぼうつとして其結

果書牒をします、私の頭には却つて夫がいゝのです、からだを御大事になさい 以上

八月二十五日

夏目金之助

鬼村元成様

一一四

八月二十六日

午後六時—七時 牛込區早稲田南町七番地より

府下代々木山谷三百二十九番地鈴木三重吉へ(六九)

拜復 須永の話を分冊にするならば二冊にして一度に出して下さい。それから兩方で二百頁になるやうに何か好い加減なものをつめ込むのは少々困ります、分冊なら分冊でいゝからはつきり二冊にして頂きたいと思ひます、右は無理かも知れませんが私の方の都合もありますからどうぞあしからず 草々

八月二十六日

夏目金之助

鈴木三重吉様

一一五

八月三十一日

午後一時—二時 牛込區早稲田南町七番地より

神田區南神保町十六番地岩波茂雄へ(三) [封筒表左側下に「奥附在中開封用心」とあり]

拜啓奥づけ兩三枚書いて見たうち一番よさうなものを御目にかけて申候此中に著者發行所印刷所の名を朱字で細かく配置する譯に相成候が「猫」の奥づけを覽ると大體の見當相つき申候 猶委細は御面語の上萬々

八月三十一日

夏目金之助

岩波茂雄様

一一六

九月四日

午前十時—十一時 牛込區早稲田南町七番地より

小石川區高田老松町四十三番地津田龜次郎へ(三七)

拜啓 昨夜は失禮致しました 今朝あの旅順の日記を拜見しましたがあれはどうも新聞向でありませぬ雑誌がいゝでせう反響かほとゞぎすはどうですか

昨夜御話した通り社へ返事をしてくれといつてやつたのに〇〇といふ男は黙つてゐます不都合だと思ひます返事をしない處へあれを送るのは厭です其意味からしてももう社へは交渉しませぬどうぞあしからず 草々

九月四日

夏目金之助

津田青楓様

一一七

九月四日

午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より

京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内山本松之助氏へ(二七)

拜啓短篇の原稿をまとめる事を社の方でやつて頂きたいと思ひます今迄とくに來るべきで來ないのは長田と久保田です。長田は心臓ケイレンだとかいつて二三日待つてくれといつたのがもう餘程前になります夫からどうしたか知りませぬ久保田は九月二三日迄には非くる筈でまだ來ませ

ん。私がかう人に催促するのが厭になりました

其外に谷崎は九月十日の約束です夫から里見は九月一杯にかく事を八分通り受合つてゐます是等もし來たら此方から差上ります

つきに出すのを武者小路か高濱との御注文でしたが私はまだ雙方とも懸合ませぬ、武者小路君はすでに出したし長いものをかく種があるか分らないからです高濱は近頃小説には遠かつてゐますし其砌は旅行中でした。

あとのものに就ての心當りは少々ありますが是はあなたの方で御極めになりたい人があるなら私を省略して直接に御極め下さい

御多忙中閑文字をつらねて濟みませぬ 草々

九月四日

夏目金之助

山本松之助様

一一八

九月五日

午前九時—十時 牛込區早稻田南町七番地より

拜啓此間あつた時小説を書きたいやうな話をされたし私もよからう位には答へて置いたやうにも思ふが其所が明瞭な約束でなかつたため其後君の事は丸で忘れてしまつたのです、忘れても差支はないが實は一昨日手紙で原稿の取まとめ方をちやんと社の方へ譲り渡してしまつたのです夫には少し事情もあるが面倒だから申しません、ともかくも僕が萬事取り計つてゐるうちなら其内の融通も利くが此方から人名と約束の期日を知らして凡て事務引繼の如き事をやつたあとではもう私の手を離れたと同様だから今新たに君を入れるのは私からは云ひにくくなつてゐます、尤も長田や久保田は書く約束を何度でも延ばすからもし其方を破約して君を入れるなら出来るかも知れないがそれは社の方の考で今では私の意見には參らない私が當事者なら長田は斷わるかも知れないが夫より凡ての面倒を社の方に任せる方が好からうと思つて斷わらずにさうしたのです長田が心臟痙攣とかいつて寄こしたのは大分前ですが其後病氣がわるいのかなまけてゐるのか見當はつかないのです、^原もうも御氣の毒のやうですが以上の譯だから我慢して外へ廻して下さい夫でなければ薄井にでも頼んで山本に話して御もらひなさい 失敬

九月五日

金之助

豊隆様

九月五日 午前九時—十時 牛込區早稻田南町七番地より

下谷區谷中天王寺町三十四番地田村俊氏へ(三)

御手紙を拜見致しました小宮が何か申上たさうでそれがため御氣に障つたと見えますどうも恐れ入りました 小宮は馬鹿ですからどうぞ取り合はないように願ひます あれは大暑でも何でも毎日芝居ばかりへ行つて知つたものゝ顔を見ると要らざる話をして喜こんでゐると見えます 私は「あれがあの人癖だ」杯と申した覺はありません、私があなたの手紙に對して加へた評について露骨な有體の事をこゝに繰返すのは私の責任でもあり又難事とも思ひませんが手紙でくどくどしい事を申すのも手間が取れますから今後もし機會があつて御目にかゝる事が出来た時 御質問が出れば何でも御満足の行くやうに御話を致す考で居ります 右迄 草々

九月五日

夏目金之助

田村俊子様

九月六日 午前九時—十時 牛込區早稻田南町七番地より

神田區南神保町十六番地岩波茂雄へ(三)

拜啓青肉にて押す検印を書いて見たれどうまゝ行きませぬまづ其うちの出来の好いと思ふのを御覽に入れますもし是が間に合はなければ普通のものを普通の印判屋「に」彫らせたらどうかと思ひます 以上

九月六日

夏目金之助

岩波茂雄様

一一一

九月七日 午前九時—十時 牛込區早稻田南町七番地より

神田區南神保町十六番地岩波茂雄へ(四)

拜啓昨夜御送の序文中必要の文句丈加へましたからよろしく願ひます夫から目次の方も同封で

九月七日

夏目金之助

岩波茂雄様

一一二

九月七日 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より

下谷區谷中天王寺町三十四番地田村俊氏へ(四)

拜啓大事な原稿がなくなつたさうで甚だ驚ろきました新聞社だの活版所など、いふものは第一に原稿を大事にしなければ濟まないのにどうした事でせう實に不都合だと思ひますもう一返御書きになるならば無論もう一返原稿料を取るやうになさい。社のものはあやまりましたか。あやまらなければ私の所へ云つてきて下さい。責任者か「ら」一應の挨拶を致させるやうにします 以上

九月七日夜

田村俊子様

夏目金之助

一一三

九月十六日

午前十一時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より
本郷區駒込西片町十番地笹川種郎氏へ(二三)

病氣の御見舞状をうけ難有存じます。今日やつと起き上つて此手紙をかきます。床はまだ上げず。然し今度のはいつもの病氣ではなくひどい胃カタルです。右御禮まで 草々

九月十六日

夏目金之助

臨風老兄

一一四

十月十七日

午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より
下谷區上野櫻木町四十四番地眞如院中勘助氏へ(二〇)

君は知るまいが僕は其後煩つてまだひよろ／＼してゐる。原稿は受取りましたがとてもあの長いものをよむ勇氣はない。其外にも依頼されてよまねばならぬものもあるがまだ放擲してゐます。どうぞあしからず思つて下さい。

十月十七日

夏目金之助

中勘助様

一一五

十月十七日

午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より
仙臺市清水小路五十番地小池聖治氏へ(三)「はがき」

啓レツシングの御高譯たしかに頂戴致しました病中にて其儘に致し甚だ不相濟候どうぞ御許し下さ

一一六

十月十七日

午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

府下大井町濱川山口館秋山眞澄氏へ

私は病中あなたの御手紙を拜見致しましたが筆を執る事が不可能なのでつい御返事を上げませんでしたまだ少しひよろ／＼してゐますが折角の御手紙に對する私の責任として一言御答を致します實を申し上げると御指名の御作はまだ拜見して居りません又早稲田文學も手元に御座いませんし雜誌を御送りになれば氣分のいゝ時に拜見した上單簡な愚見を申し上げますらうと存じます 右迄

十月十七日

夏目金之助

秋山眞澄様

一一七

十月二十日

午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

小石川區原町十二番地木村恒氏へ (四)

私は病氣が略癒つて手紙が書けるやうになつたからあなたに御禮をいふ爲めに此手紙をかきま
す 果物と鉢をありがたう 原稿は見ましたが二つともあまり好くありません、小説の方よりは
脚本の方がまだ好いでせうあれは人によつたらほめるかも知れません 脚色が芝居的だから 然
し其脚色があるにも拘はらず一篇の主意が少し變です「海へ行く」といふ主意が不自然に讀ま
れるのです、疲勞で長い事が書けませんから是丈で御免蒙ります 以上

十月下浣

夏目金之助

木村 恒様

一一八

十月二十日

午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

京橋區築地明石町六十一番地松根豊次郎へ (四七)

大阪のなだ萬のでんぶと鼈の味噌頂戴ありがたう 病氣は略よろしい然しまだ床は上げず 是
も必竟は勤のない時間に制限の要らぬ爲かも知れず ある夜のみとひといふ句集面白く拜見、あ

のうちにある素石といふ男は人に短冊を書いてくれといつて書いてやると一言も禮を云はぬ都合な奴なり 寐ながら句を作らうと思ふが一向出來ず

酒少し徳利の底に夜寒哉

酒少し参りて寐たる夜寒哉

眠らざる夜半の灯や秋の雨

電燈を二燭に易へる夜寒哉

一向句にならず

此間岩波が来て僕の句集を出したいといふから僕の句は散亂してまとまらないと云つたら夫は自分が方々へ行つて書きあつめると云つた 僕は恐縮して未だに許諾を與へずにある

十月下浣

夏目金之助

東洋城様

一二九

十月二十日 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

牛込區市ヶ谷左内坂町橋口清氏へ (二三)

此間は拙著の装幀について御同情のある御批評を下さいましてありがたう存じます 御禮を申上げる筈でしたが病氣で一ヶ月許寐てゐましたのでつい其儘にして置いて濟まん事を致しました 承はればあなたもまだよくないさうで御手紙では三四日中に温泉場へでも御出向のやうに書いてありましたがもう御本復御歸りの事と存じますが如何ですか

晝の展覽會が澤山ありますがまだ外出も出來ないのでどれも見ません 貴君が漢大吉磚瓦硯を送つて呉れました私は机の上に載せて飽かず眺めては楽しんでゐます 以上

十月下浣

夏目金之助

橋口清様

一三〇

十月二十一日 午後四時—五時 牛込區早稻田南町七番地より

鹿児島市第七高等學校皆川正禎へ (三四)

君が来てから又病氣をして寐てゐた 鮎は御國元から頂戴したが生憎の病氣で喰ふ譯にも行か

ず残念でした 琉球がすり慥かに届きました妻から御金は送つたらうと思ふもし未だなら送りま
す、「心」一部差上ますから御受取を願ひます 野間君へよろしく 以上

十月二十一日

夏目金之助

皆川正禧様

一三一

十月二十三日

午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より
陸奥國野邊地野坂十二郎氏へ(二)

啓御贈の貝の干したものでありがたく存じます昨日到着致しました私は病後で堅いものが食べら
れさうにないけれどいつ迄置いても腐敗の恐もないだらうと思ふから身體がよくなつたら食べま
す

先は右御禮まで 草々

十月二十三日

夏目金之助

野坂十二樓様

一三二

十月二十四日

午後三時—四時 牛込區早稲田南町七番地より
高田市横町森成麟造氏へ(二)

拜啓好い時候になりました此間は松茸を御贈り被下ありがたう御座いましたあの時は病氣で寐
てゐました病氣の例の通りのもです約一ヶ月以上かゝつて漸く起きました夫であれば食べられ
ませんでした但し御手紙は拜見しました御禮に上げるものもありませんから近著「心」を一部小
包で差上ますどうぞ御受取下さい 以上

十月二十四日

夏目金之助

森成麟造様

一三三

十月二十六日 午後八時—九時 牛込區早稲田南町七番地より

小石川區白山御殿町百十番地内田榮造へ（二三）〔はがき〕

彼岸過迄と四篇の縮刷を校正する時間と意思がありますか折返し御返事願ひます 草々

一三四

十月二十七日 午前十一時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より

下谷區上野櫻木町四十四番地眞如院中勸助氏へ（二二）

拜啓病氣はまあ癒りました御安心下さい 一昨日と昨日とで玉稿を見ました 面白う御座います、たゞ普通の小説としては事件がないから俗物は褒めないかも知れません 私は大變好きですことに病後だから又所謂小説といふ惡どいものに食傷してゐる所だから甚だ心持の好い感じがしました、自分と懸け離れてゐる癖に自分とびたりと合つたやうな親しい嬉しい感じですが、尤も悪い所もあります夫はまあ俗にいふ微疵原であります。私はあゝした性質のものを好む人が少ない丈それ丈あゝいふものに同情と尊敬を拂ひたいのです

原稿は御あづかりして置きませうか又は一先づ御返しませうか どつちでもあなたの御都合の好いやうに取計ひます 草々不一

十月二十七日

夏目金之助

中 勘 介 様

一三五

十月二十八日 午前十時—十一時 牛込區早稲田南町七番地より

京都市富小路御池西川源兵衛氏へ（二三）

拜啓久々御無沙汰を致しました此間手紙をいたゞいた時は病氣で寐てゐましたので御返事をする事も出来ずつい失禮しました 此頃漸く回復致しましたから今日は御挨拶かたゝ 此手紙を書きます

あの書畫帖へ出鱈目なものを書きましたのは事實ですそれを青楓君に見せたのも事實ですが實は不愉快で不愉快でたまらなかつたのでむしろくしゃ紛れに書いて仕舞つたのです夫をあとから見るととても人に差上られるやうなものではありありませんので其儘に「し」てゐるうちについて病氣で寐てしまつたのです私はあなた「が」是非欲しいと仰やるなら其内自分で書畫帖を買つて來て相應のものを書きたいと思ひますあれはどうぞ勘辨して下さい始から貰つたもので「も」な

いのに勝手に書き散らして御詫もしない罪は御許し下さい黙つてゐて済まん事と存じまして一言
言譯がましい事を申上ます、好い季節になりましたが私はまだ展覧會ものぞかずに居ります

十月二十九日

夏目金之助

西川一草亭様

一三六

十一月五日

午前十一時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より

大阪府下濱寺羽衣松南水落義一氏へ(四)

啓あなたの御病氣は如何ですか私も病氣をして長い事寐てゐました今日は久し振に人から頼ま
れた書を大分書きました其うちにあなたのも一枚加へました晝といふ御注文でしたけれど晝はか
けませんから書を書きました書もまづいのですがまあ已を得ません御氣に召したら御笑納を願ひ
ます、是でも書くのは中々臆劫です今日は紙を切るやら墨をするやら色々の事で一日の三分二位
つぶしました段々秋風がさびしくなります御身體を御大事になさい 以上

十一月四日

夏目金之助

水落露石様

一三七

十一月五日

午前十一時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より

高田市横町森成麟造氏へ(二三)

森成さんいつか私に書を書いてくれといひましたね私は正直だからそれを今日書きましたあな
た許りので「は」ありません方々のを一度にかためて書いたのです一日の三分一程費やしました
あなたのは御氣に入るかどうか知りませんが私の記念だと思つて取つて置いて下さい
良寛はしきり「に」欲いのですとても手には入りませんか 以上

十一月四日

夏目金之助

森成麟造様

十一月六日 午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より

本郷區駒込追分町五番地興成館林原（當時岡田）耕三へ〔はがき〕

- (一) 詩經ニ窈窕たる淑女ハ君子ノ好^{キウ}速^{キウ}とあり。速は配偶ノコト求^{キウ}即チ求メルといふ字に^是ヲツ
- けタモノ。ノベルは述ニテ朮ニ^是ナリ
- (二) ナンコをツカムにて差支ナシ
- (三) ヨリ、の方ヨカラシ
- (四) ベラ／＼で差支ナシ上ニ^不ヲ加へてモ加ヘナクツテモヨシ

十一月七日 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より

本郷區駒込追分町五番地興成館林原（當時岡田）耕三へ〔はがき〕

- (一) 汐汲か汐酌みか知ラナイ、君ノ好^{キウ}い方ニシテ下サイ
- (二) 大神樂ナルベシ

十一月七日

十一月八日 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より

本郷區駒込追分町五番地興成館林原（當時岡田）耕三へ〔はがき〕

今日の校正のうち赤いしるしの附してない所を二三ヶ所氣がついたから直して置きました 以上

十一月八日

十一月八日 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より

拜啓其後は御無沙汰を致しました たしか去年の事と思ひますがあなたは私に何か書いてくれと云はれました其時私は傑作が出来たら上げませうと答へました 傑作は無論出来ませんが約束を履行しやうと思つてあれから一枚書いたのです然し拙いので上げる氣にもなれないので其儘にして置いたのです此間病氣をした時に御見舞を頂いた後私は永らく寐てゐました 起きてから十日頃は今迄頼まれた書を諸方へ送らうと思つて一度に片付けました約束十五六枚あつたでせう其内去る人の自壽の詩に次韻したものを注文で書く義務があつたのですが外のものはまあ好い加減に胡麻化したのですが其一枚が何う書き直してて書けない爲めとう／＼大變な時間を潰して仕舞に腰がいたくなりました、今御贈りする五絶は其時序と云つて失禮ですがまあ序に書いたのです無論豫約の通り傑作とは參りませんが何だか差上げないと氣が濟まんから御笑覽に供します私は多病でいつ死ぬか分らない人間ですがもし生きてゐればもつと旨くなつて貴兄に御満足の行くやうなものを書き直してあげて前債を償ひたいと思つてゐますがいつ死ぬか分りませんから拙くてもまあ是を差上げて置く事に致しますどうか御納め下さい 以上

十一月八日

夏目金之助

臨風學兄

座下

一四二

十一月九日 午後二時—三時 半込區早稲田南町七番地より

本郷區駒込千駄木町五十番地岡田正之氏へ(二)

啓上

此間は講演の事につき御出被下ありがたう御座います本月二十五日か來月二日かに御極め「の」よし承知致しました私はどちらでも構ひませんが早い方が便利で御座いますから十一月二十五日に出る事に致します然し時間について一寸申上ますが三時からだと四時か四時過になる事と存じます近頃は日が短かう御座いますから電燈をつけるには早しつけないでは暗「し」といふ時間になつて遣る方も聞く方も氣が落ち付かないかと思はれますが出来るなら二時からに致したいと思ひます

夫から學習院はたしか目白の女子大學の先と心得てゐますがさうで御座いますか
學校へ參つたらあなたの名を指して御面會を申入れてよろしう御座いますか
次に演題はまだ未定でありますからどうぞ其御積に願ひます

最後に入らぬ事ながら學校が學校だから蛇足とは存じますが一言つけ加へます揭示其他に私の姓名の上に文學博士と書く事は御會釋を願ひます私は博士でも何でもありません現に私方へ參る書信に文學博士と誤つて書いてくるのも殆んど絶無で御座いますから間違もなからうと思ひますが官邊に縁の深い學校の事ですから此點はとくに御願を致して置く譯であります揭示の必要があらますなら演題未定夏目漱石もしくは金之助とのみ御書き下さいまし右御挨拶用件のみ申述べました餘は拜眉の節萬々申上る積であります 以上

十一月九日

夏目金之助

岡田正之先生

座下

一四三

十一月九日

午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より
小石川區原町十二番地木村恒氏へ(五)

玉稿は拜見しました薬屋を始めたら薬屋の事を是から御書きなさいさうして家業に精を御出し

なさい玉稿の價値はまあ一通りのものです原稿の拂底な雑誌なら或は載せるかも知れませんが少し奥へ進んだ所が一個所あつてそれが扇のカナメのやうになつてゐると一變好いと思ひます、あれは御返ししますか又は御預りして置きますか 御返事次第でどうとも致します 以上

十一月九日

夏目金之助

木村 恒 様

一四四

十一月九日

午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より
牛込區喜久井町三十六番地牛尾方吉永秀氏へ(二)

拜復此間は御出下さいつた處留守で失禮致しましたあなたは私の書物を愛讀して下さいさうですが感謝致します、然し人の作物はよんで面白くても會ふと存外いやなものですだから古人の書物が好きになるのです 私に御目にかゝるのは構へませんが御目にかゝる價値のない男ですから夫程御希望でないなら御止めなさい、夫から私に會つてどうなさる御つもりですかたゞ會ふのですか私は物質的には無論精神的にあなたに利益を與へる事は到底出来まいと思ひます

失禮ですがあなた大變奇麗で読み易い字を御書さになります私に此通り亂暴です御推讀を願ひます 不悉

十一月九日

夏目金之助

吉永 秀 様

一四五

十一月十日

午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より

本郷區駒込追分町五番地興成館林原(當時岡田)耕三へ(四五)〔はがき〕

「瘦せてゝも」だらうと思ひます。御推讀の通りだらうと考へます 以上

十一月十日

一四六

十一月十一日

午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

府下葉鳴町上駒込三百二十九番地野上豊一郎へ(六四)

拜啓 原稿は受取申候 然しあれは社會部の權利に屬するものにて小生はあまり容喙するを好まず 現に今出てゐる與謝野昌子原女子の感想など小生から云へば無論没書にする底のものに候へども私の關係する筋でなき故其儘に致し居り候 私に依頼したら直接に頼んで見ろといふ返事を得たといふ事をかいて社の山本松之助君宛で原稿と手紙を出し「て」御覽なさい ことによればのせるかも知れないから。原稿は必要ならすぐ返しますが木曜にでもくるなら其時迄取つて置きます 以上

十一月十一日

夏目金之助

野上豊一郎様

一四七

十一月十二日

午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より

本郷區追分第一高等學校菅虎雄氏へ(三〇)

拜啓昨日は突然飛んだ事を御依頼ことに遠路拙宅迄御光來を願ひ何とも申譯なき次第平に御海

恕可被下候不在中電話にて好都合に運び候趣あとにて承知御好意萬謝致候同夜天台道士祝賀委員一同の名を以て左の通りの書面を領し此事件も是にて一段落と相成申候ひとへに御盡力の結果と感佩不淺候手紙の寫念の爲め左に差添申候

「拜啓昨日御送申上候天台道士還曆祝賀會趣意書中文學博士の四字を貴名の上に冠せしは誤植にて何とも申譯無之候一般の方面へは未だ一葉も發送不仕候故必ず四字抹消の上配達可仕又既に發送致したる二百枚（發起人の分）に對しては端書を以て早速取消可申候間何卒御海恕被成下度此段願上候 敬具

十一月十一日

祝賀會委員一同

ついで小生よりは祝賀會へも前田君へも何等の手紙も出さず候故大兄より電話なり何なりにて宜敷御傳願上候

右御報旁御禮迄 草々頓首

十一月十二日

金之助

虎雄様

座下

十一月十二日

午後五時—六時 半込區早稲田南町七番地より
本郷區駒込千駄木町五十番地岡田正之氏へ（三）

拜復時刻の儀は三時ならでは御差支のよし承知致候同日（二十五日）同刻にまかり出る考に御座候博士といふ肩書つきの揭示其他については何分の御挨拶なさまも無論御承諾の事と心得改めて念を押す事なく參上の決心に候此問題につき昨今妙な行違より自他共に迷惑致し隨分の手敷を相手にかけて申候につきわざとらしくは候へども一言申添候次第不惡御了察願上候先は右迄 草々敬具

十一月十二日

夏目金之助

岡田正之様

十一月十四日 午前（以下不明） 牛込區早稻田南町七番地より

本郷區駒込追分町五番地興成館林原（當時岡田）耕三へ（四六）

拜復 私が生より死を擇ぶといふのを二度もつゞけて聞かせる積ではなかつたけれどもつい時の拍子であんな事を云つたのです然しそれは嘘でも笑談でもない死んだら皆に柩の前で萬歳を唱へてもらひたいと本當に思つてゐる、私は意識が生のすべてであると考えるが同じ意識が私の全部とは思はない死んでも自分「は」ある、しかも本來の自分には死んで始めて還れるのだと考へてゐる 私は今の所自殺を好まない恐らく生きる丈生きてゐるだらうさうして其生きてゐるうちは普通の人間の如く私の持つて生れた弱點を發揮するだらうと思ふ、私は夫が生だと考へるからである 私は生の苦痛を厭ふと同時に無理に生から死に移る甚しき苦痛を一番厭ふ、だから自殺はやり度ない 夫から私の死を擇ぶのは悲觀ではない厭世觀なのである 悲觀と厭世の區別は君にも御分りの事と思ふ。私は此點に於て人を動かしたくない、即ち君の様なものを私の力で私と同意見にする事を好まない。然し君に相當の考と判断があつて夫が私と同じ歸趣を有つてゐるなら已を得ないので、私はあなたの手紙を見て別に驚ろきもしないが嬉しくも思へなかつた寧ろ悲しかつた 君のやうな若い人がそんな事を考へてゐるかと思ふと氣の毒なのです。然し君は私と同じやうに死を人間の歸着する最も幸福な状態だと合點してゐるなら氣の毒でもなく悲しくもない却つて喜ばしいのです

江口と喧嘩をしたら仲直りをしたら好いでせう、仲直りの出来ないやうな深い喧嘩なら仕方がない 江口はそんなに仲直りの出来ない程感じのわるい人とは思はない 以上

十一月十三日

金之助

耕三様

一五〇

十一月二十二日 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より

本郷區駒込追分町五番地興成館林原（當時岡田）耕三へ（四七）「はがき」

縮刷についての御忠告拜承何分ともよろしく願上候小生は何等の考もなし（本を見ないから）

一五一

十一月二十七日 牛込區早稻田南町七番地より

京橋區築地明石町六十一番地松根豊次郎へ（四八）

拜復大阪よりの御土産拜受ありがたく存候「心」御約束の處其後署名を怠り居候ためそれからそれからとなくなり只今手本原に一冊も無之候尤も書店から取寄てあげる事は譯なく候もし急に御入用ならば其旨御申越次第小包にて差出可申候もし然らずばいつでも御面會の節に取計可申候以上

十一月二十七日

夏目金之助

松根豊次郎様

一五二

十二月二日

午後零時—一時 半込區早稻田南町七番地より

本郷區駒込追分町五番地興成館林原(當時岡田)耕三へ(白)

拜復 彼はカレ他はひとでもたでもよろしく候 たら然と酔ふとあるのは漢字にすれば無論陶然なるべく存候 頓首

十二月二日

夏目金之助

岡田耕三様

一五三

十二月六日

半込區早稻田南町七番地より

福井利吉郎様へ

拜啓此間御來臨の節御求めの拙書恐縮とは存候へども折角の御希望故御約束に従ひ試みに相果し小包にて差上候間御落掌願上候御預りの玉版箋は二枚とも墨をなすくつて見申候箋下(一)と記したる分(二)よりもまだ増しかとも被存候へども是は御面語の砌申上候通義務なき試み故御採否は無論御自由と御承知被下度候萬一枚御役に立ち候場合には残る一枚は御裂きすての程希望致候雙方共落第の節は二枚とも反古籠へ御入れ被下度候右當用迄 勿々敬具

十二月六日

夏目金之助

福井利吉郎様

十二月七日 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

本郷區駒込追分町五番地興成館林原（當時岡田）耕三へ（四九）〔はがき〕

御問合せのるびの事はあの通りでよろしう御座います

雛子にはたしかに「さん」がつけてあります

東京語ではあゝいふ場合「ひとつかみ」とはいふけれども「ひとつまみ」とはいひません「ひとつまみ」といふ事も時と場合ではあるけれどもその例は今思ひ出せません。尤も一つまみでも大した間違にはなりません。

十二月八日 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より

牛込區市ヶ谷田町二丁目一番地馬場勝彌氏へ（四）〔はがき〕

葉卷の煙御送被下ありがたく奉鳴謝候不取敢右御禮迄委細は拜眉の節に譲り可申候 以上

十二月十日 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より

横濱市元濱町一丁目一番地渡邊和太郎氏へ（三三）

御無沙汰を致しまして申譯がありません鮭一尾例年の吉例にて御惠贈ありがたう存じます大分寒くなりましたあなたの病氣は如何ですか随分御注意をなさいまし私は死につゝさうして生きつあります 以上

十二月十日

夏目金之助

渡邊和太郎様

十二月十一日 午後（以下不明） 牛込區早稻田南町七番地より

本郷區駒込追分町五番地興成館林原（當時岡田）耕三へ（五〇）

啓本日午後五時頃歸宅せる處別紙催促狀参り居候故御約束の通御送付申候校正料を懸合つて先

へもらつて急場を凌いで如何

右迄 勿々

十二月十一日

夏目金之助

岡田耕三様

一五八

十二月十三日

午後零時—一時 半込區早稻田南町七番地より

横濱市元濱町一丁目一番地渡邊和太郎氏へ (三四) 「はがき」

御手紙で恐れ入りました鮭は二尾ださうです私は迂濶なものだから包もとかずについ一尾と思ひ込んだのでせう、御手敷をかけて濟みません、御勘辨を願ヒマス

一五九

十二月十四日

午後二時—三時 半込區早稻田南町七番地より

本郷區駒込追分町五番地興成館林原(當時岡田)耕三へ (五二) 「はがき」

「情なさうな」の方がよいやうに思はれます

十二月十四日

一六〇

十二月十五日

午前十時—十二時 半込區早稻田南町七番地より

本郷區駒込追分町五番地興成館林原(當時岡田)耕三へ (五三) 「はがき」

拜復

岡君の訂正の通りでよいかと思ひます何分とも宜敷やう願ひます 以上

一六一

十二月十五日

午後六時—七時 半込區早稻田南町七番地より

府下巢鴨町上駒込三百二十九番地野上豊一耶へ (六五)

拜啓奥さん御歸りの由よろしく倍一寸必要ありて大分縣東國東郡臼杵國廣知二(三十六) (駒

場農科大學專科出身現時二六新聞社事務長）此人の素行性質其他知れるだけの事を知りたいのですが御面倒でも一寸調べて教へて呉れませんか私も頼まれたのです結婚の問題の事です 以上

十二月十五日

夏目金之助

野上豊一郎様

一六二

十二月十七日

午後二時—三時 牛込區早稲田南町七番地より

本郷區駒込道分町五番地興成館林原（當時岡田）耕三へ（五三）「はがき」

「十時迄に」の方がよからうと思ひます

十二月十七日

一六三

十二月十八日

午前十時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より

府下葉鳴町上駒込三百二十九番地野上豊一郎へ（六六）「はがき」

御手紙ありがたう早速當人に知らせます、もし其人（即ち父）が君に逢ひたいといつたらどうぞ會つてやつて下さい

十二月十八日

一六四

十二月十八日

牛込區早稲田南町七番地より

牛込區辨天町百七十二番地山田繁氏へ（六七）

此間御出の節は色々頂戴物を致しまして済みません あの時の玉稿は拜見致しました 短かいけれども面白いものですイソツプ物語を複雑にしたやうな感じが致します此前拜見したもののうちにもあんなものがあつたやうに記憶して居りますがあゝいふ種類のものは一まとめにして保存して御置になつたらよろしからうと存じます、

玉稿のうち解らない言葉が一箇所あります傍に黒い線を引いておきました 以上

十二月十八日

夏目金之助

山田繁子様

五四〇

一六五

十二月二十一日

午後一時—二時 牛込區早稲田南町七番地より
牛込區市ヶ谷田町二丁目一番地馬場勝彌氏へ(五)

拜啓あなたの御母さんの御亡くなりになつた事を廣告で承知致しました謹んで御弔みを申上ます今日御葬式のある事も存じて居りますが少し氣分が勝れませんでしたので参りかねますので甚だ失禮とは存じますが手紙で哀悼の微意を表するのではありませんどうぞあしからず 敬具

十二月二十一日

夏目金之助

馬場勝彌様

一六六

十二月二十一日

午後一時—二時 牛込區早稲田南町七番地より

小石川區高田老松町四十三番地津田龜次郎へ(三八)

此間もらつた君の梅と竹の畫の表装が出来て來ましたから掛けてゐます中々立派です私のも出來て來ましたが是はどうもあなたが賞めて下さつた程感心しません今度の木曜にでも來てまづあなたのを見て下さい、私は酒さへ飲めればあなたの爲に祝盃を擧げたいと思つてゐます。齋藤與里君に頼まれて繪(靜物)を一枚買はせられました 以上

十二月二十一日

夏目金之助

津田青楓様

一六七

十二月二十一日

午後三時—四時 牛込區早稲田南町七番地より
本郷區駒込道分町五番地興成館林原(當時岡田)耕三へ(五四)

- (一) ところを所にませう
- (二) 梓はとりませう
- (三) 漱石は是でももう少し大きくてもよろしいでせう。或は漱石を此儘にして彼岸過迄に就てを

五四一

もう少し小さくしたら何うでせう
(四)「ゴシック」と肩をならべるか、見出しの風呂の後の風と比べるか、どつちともよろしきやう願ひます

十二月二十一日

夏目金之助

岡田耕三様

一六八

十二月二十二日

午前十一時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より

本郷區駒込追分町五番地興成館林原(當時岡田)耕三へ(五五)「はがき」

- (一)「二三間先に大きな寺がある」の間違かと思ひます
- (二)「口を開きませぬ」です 以上

十二月二十二日

一六九

十二月二十三日

午後一時—二時 牛込區早稲田南町七番地より

本郷區駒込追分町五番地興成館林原(當時岡田)耕三へ(五六)「はがき」

- (一)シエクスピヤ
- (二)盤
- (三)ばうはく
- (四)天ぶら屋

右の通りに候間よろしく願ひます

十二月二十三日

一七〇

十二月二十四日

午後五時—六時 牛込區早稲田南町七番地より

本郷區番場町凸版印刷會社外來校正室林原(當時岡田)耕三へ(五七)「はがき」

- (一)蘭オランダでよからうと思ひます。私も實物を忘れてしまつた。(二)テナゲダンテナゲダンでも手擲シュ彈でもよろしきやう願ひます(三)此將軍は戰爭丈には熱心で……で差支ないと思ひます。(四)少し面白くなかつたから……矢張り元の通りだと思ひます 一寸變だけれども。
- 徹宵の御勞力甚だ恐縮します

一七一

十二月二十七日

午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より
牛込區喜久井町三十六番地牛尾方吉永秀氏へ(三)

あなたの御話を伺つた時私は非常に御氣の毒に思ひました然し私の力ではあなたをどうして上げる譯にも行かないと思ひまして只今御手紙が參つてあなたはまだ東京に居られる事を知りましたさうして又教師になつて生活されるといふ御決心を知りました私はそれを嬉しく思ひますどうぞ教師として永く生きて居て下さい 以上

十二月二十七日

夏目金之助

吉永秀子様

一七二

十二月二十七日

午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より

小石川區原町十二番地木村恒氏へ(六)

拜復アイヒエンドルフの譯正に受取りました 序を書けといふ御注文だから何か書かうと思ひますが譯を読むひまがありません 歳は行き詰まる私の氣分も行きつまる何をするのも厭であります たとひあなたの翻譯を讀み了せたとて今年中の出版には間に合ひますまい だから一層書かない方があなたの方の便宜かも知れないと思ふのです 實をいふと私はよく内容も見ずに序文丈を書くやうな手つとり早い事は不得手なのです夫から嫌なのです 以上

十二月二十七日

夏目金之助

木村 恒様

一七三

十二月三十日

午後八時—九時 牛込區早稲田南町七番地より
静岡縣駿東郡富士岡村神山勝文和三郎氏へ(四) [印刷したる年賀狀の端に]

ミカンをありがたく頂戴しました御禮を申上ます序だから申上ますが私は文學博士ではありませ
ん

大正四年

一

一月六日 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より

滿洲大連南滿鐵道株式會社内上田恭輔氏へ (三) [印刷したる年賀状の端に]

あなたからは去年も年賀状をいたゞいたのですが此方はあまり遅くなつて極りが悪いから上げ
ませんでした、此年は思つてゐた所又同様の失敗をくり返して恐縮に堪へませんどうぞ失禮を御
許し下さい

二

一月二十日 午後四時—五時 牛込區早稻田南町七番地より
神戸市平野町祥福寺鬼村元成氏へ (七)

拜復あなたの送つて下さつた瓦煎餅は今朝届きましたあの小包は坊さ「ん」が胸にぶらさげてゐるものに似てゐました。煎餅は壊れてゐます。私も子供も食べました、あゝしたものは僧堂のなかでは楽しん「で」皆さんが食べるだらうと察せられますがあなたはそれを私に送つて下さつたのだから餘慶にありがたい氣がします。其代り幸ひ手元に彼岸過迄の縮刷がありますから小包で差上ります。あなたの手紙にある知客寮とか殿司寮とか除策とかいふ言葉は私には大變面白いのですあなたの胃はまだ癒りませんか御大事になさい東京は昨今却つてあつたかです、私の風邪は漸くよくなりましたした御安神下さい、胃の方は宿痾だから癒らんけれども今はまあ無事に済んでゐます 以上

一月二十日

夏目金之助

鬼村元成様

三

一月二十二日

午後四時—五時 牛込區早稲田南町七番地より
淺草區小島町三十四番地後町方今井みとし氏へ (二)

拜復御手紙を拜見致しました私に御會ひになりたいと仰やるのは何か事情のある事なのですか又はたゞ會つて見たいのですか、紹介状をもらふ人はありませんか、あなたは何處の人で何處の學校へ行つて何をしてゐるのですか。私に會つても會ふとつまらないですよ。だからもう一遍考へて夫でも會ふ氣なら私の今の質問に對する返事を下されば其上で會ふべき筋なら日を極めて御目に懸りますから 以上

一月二十二日

夏目金之助

今井みとし様

四

一月二十五日

午後三時—四時 牛込區早稲田南町七番地より
淺草區小島町三十四番地後町方今井みとし氏へ (三)

私が諏訪へ行つて講演をした時あなたが聞きに来て居た事は丸で知りませんでした、私もあの時分から見ると大分年を取りました

私の面會日は木曜です、然し近頃は原稿を書いてゐるので午前は駄目です午後から夜へかけて

なら御目にかゝれます、但し夜は何時でも若い男の人達が落ち合いますから夫に御宅も御遠方ですからまあ午後の方が宜しいでせう。然し今度の木曜の午後には一人の男の人が来るかも知れません、今日来たから木曜の午後に来いと断つたのですから、もしそれで御差支がなかつたら入らつしやい。私は構ひませんから 以上

一月二十六日^原

夏目金之助

今井みとし様

五

一月二十五日

(以下不明) 牛込區早稲田南町七番地より

本郷區第一高等學校寄宿舎中寮八番藤森秀夫氏へ

拜復私はあなたからなつかしいとか親しいとか云はれる資格のない男でありますがああなたの方でさう思つて下されば私にとつては甚だありがたいのです。もしあなたが私と懇意になつて私の悪い所ばかりに眼が着くやうになつたら貴方は屹度其言葉を翻がへすでせう然しあなたの第一印象に映じた私を私自身で打ち崩す必要も権利もないのですから何うぞさう思つてゐて下さい。手

紙のなかにある新體詩に就いて私はあなたが偽を述べてゐるとは申さないのですがよく洗練された感情と技巧と一致すればもつと好いもの「が」出来るに極つてゐるのです、私は其日のあなたに来るのを待つのです、其時はあなたもあんなものを「と」云はれるだらうと信じてゐます
あなたの虚無があなたの全體を支配「して」行住坐臥離れなかつたならあなたは私の前へ出てあんな態度に譯がないかと思ひます、あなたは私をあまり眼中に置き過ぎて堅くなつてゐました、もつと自由にくつろがなくては決して相手を親しいとか懐かしいとか云ひ得ない程あなたは束縛されてゐました。尤もそれは詩の批評の方が氣にかゝつてゐたのかも知れませんが、今日は是丈にとめて置きます

一月二十六日^原

夏目金之助

藤森秀夫様

六

一月二十九日

午後三時—四時 牛込區早稲田南町七番地より

播磨國加古郡神野村石村善正寺富澤敬道氏へ(二)

あなたは鬼村さんの友達ださうですが鬼村さんは時々手紙をよこしてくれます、夫から此間は神戸の祥福寺から瓦煎餅を送つてくれました、よくみんなで食べないで送つてくれたものと思ひます

あなたも胃や肝臓がわるいさうですがたゞ黄胆原ならすぐ癒るでせうが肝臓を冒すと慢性原になつて療治が困難でせう、あれは大變氣分が鬱陶敷なるものゝやうに聞いてゐますが何うですか 迷亭流にやつてゐられますか

今は忙がしいから是丈しか書きません 以上

一月二十九日

富澤分 外様

夏目金之助

墓場には一抱ある椿かな

手折くる無住の寺の椿かな

などは面白いですよ

一月二十九日

午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より

京都市京都帝國大學寄宿舎山田卓爾氏へ(二)

拜復御手紙を拜見しました、あれ丈長い手紙をかくのは容易な事でありませんが、ことに私の爲に書いて下さつたのですから讀まない筈はないのです、私は此間大阪から來た人の手紙を半日かかつて讀みました位です。私の作物があなたに興味を興へるのみならず精神的に何物をか付け加へたのが果して事實とすれば私はありがたい事に思ひます、私はあなたに感謝して頂くよりも私の方で感謝すべきだと思ひます。私は賞められるのが嫌とは云はないのです理由もないのに贊辭を呈せられるのが苦痛なのです、それから利害心から來た御世辭に對してどう返答して好いか分らないのです

私は色々なものを書きました、私が書き始めてから十餘年になります、今から回顧して見ると藝術的な意味で全然書き直したいものが澤山あります絶版にしたいと思ふものもあります、けれども其恥は藝術上の恥で徳義上の恥でないからまあ我慢してゐるのですあなたから色々云はれると甚だ勿體ない氣がします。あの御手紙に對して其儘にして置くのは非禮と存じまして一口御挨拶を致します是から外の人へも三四本手紙を書かなければなりませんから是でやめます 以上

一月二十九日

夏目金之助

山田卓爾様

八

二月三日

午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より

北海道夕張郡登川村字夕張炭山谷口盛氏へ〔はがき〕

あなたの考は甚だ面白いのです、失禮ながら思想を練つた事のない人には珍らしいと思ひます、然し問題が非常に大きいのだからもつと研究なさる必要があるでせう。私にも一寸簡單には御答が出来ません。忙がしいので猶更です。参考書は東京へ来て圖書館へでも入らなければなりません。

九

二月三日

午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より

淺草區小島町三十二番地後町方今井みとし氏へ〔はがき〕

先日は失禮致しました、其節申しました通り木曜なら何時でも御目にかゝれます。(今は午前中はいけません)私は別にあなたを感化する能力はありません。然し御話しは誰とでも時間さへあれば致す考です

一〇

二月五日

午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より

府下巢鴨町上駒込三百二十九番地野上豊一耶へ〔はがき〕

私のものがそんなに好きで私にあひたいなら木曜に来るやうに云つて下さい、もう少し経てば朝でもよろしいが今は原稿をかくから午後。夜は色々な人がくるから向が困るだらう。君の御父さんの病氣は如何

一一

二月九日

午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より

赤坂區青山南町五丁目八十一番地齋藤茂吉氏へ(二)「はがき」

五五六

拜啓長塚節氏死去の御報知にあづかりがありがたう存じます、實は昨日久保猪之吉君から電報で知らせて来てくれた處です、惜しい事を致しました。私は生前別に同君の爲に何も致しませんが世話をしたやうに思つてゐられるのでせうか。何うも氣の毒でなりません

一一二

二月九日 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より

本郷區駒込西片町十番地畔柳都太郎氏へ(三)「はがき」

あの牛屋はなくなりましたかちつとも知りませんでした、「其頃あつた」と訂正して置きました、ちと硝子窓のそとへ出やうと思ひますが面倒だからまだ引込んでゐます

一一三

二月九日 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より

福岡市東公園久保猪之吉氏氣付小布施順次郎氏へ

拜啓長塚君御病氣の處遂に御不起のよし昨八日久保君より電報有之今日は齋藤茂吉君から通知も參り何とも御愁傷の事と遙察致候九州にての變故御取かたづけ等萬事御面倒なるべく御察申上候御令父さまへもよろしく哀悼の意を御傳へ被下度候不取敢右御弔詞迄 勿々敬具

二月九日

夏目金之助

小布施順次郎様

わざわざ電報で知らせてくれた久保さんによろしく云つて下さい

一一四

二月十日 牛込區早稻田南町七番地より

牛込區矢來町三番地新潮社へ(三)

私は日當りの好い南向の書齋を希望します。明窓淨机といふ陳腐な言葉は私の理想に近いものであります。「うっし」

五五七

二月十三日

牛込區早稻田南町七番地より

京都市富小路御池西川源兵衛氏へ

拜啓此間花の御禮をいつた後で芍薬と牡丹を間違へたといつて人から笑はれました御免下さい然しいくらそんな事を間違ても花を賞翫する事はしてゐるのですから。それから後に紙が着ました實はまだ竹の封筒の中から取り出して見ませんが多分玉版箋位のやうに思ひますが何ですかあれは下さつたのですか何か書けと仰やるのですか。津田君が立つ時には會ひませんでした私の畫風などとは實に面目ない次第です滅茶々々を畫風とする位なものです竹田も何もあつたものではないのです夫より青楓君の描いてくれた梅竹の圖が大變結構に出来ました今度上京なすつたら御目にかけます あなたの今度の手紙の字は大變旨いですね、私は招待會なんて大袈裟なもの嫌です、然し大袈裟でない人が寄るなら面白いと思ひますがまあ少しの間「硝子戸の中」を出る譯には行きません、私はひまが出来て氣が向いたら書畫帖を賣つて来て此間の賠償として心經か何かを書いて御贈したいと思つてゐます然し多分又出来損ふだらうと考へます先は右迄 勿々

二月十三日

夏目金之助

西川一草亭様

二月十四日

午前零時―七時 牛込區早稻田南町七番地より

福島市三郡共立病院南第四號室門間春雄氏へ(七)

拜復御手紙を拜見致しました處痔で御入院との事私はちつとも知りませんでした早く養生をして御出院なさいませ退屈なので私の手紙が見たいと云はれるから早く書かうと思つたのですが生憎用が立て込んで其閑がありませんでした先達は長塚君の事に就いて御注意ありがたう御座いましたあの御禮もまだ出さずにゐて済みません、あのあなたの手紙の着く前に福岡の小布施順次郎氏から長い手紙で其旨を通じて来てくれました、あなたの今度の手紙には長塚の事があります、私若いが氣の毒な事に八日に亡くなつたのです、是は新聞であなたも御承知の事と存じます、私は若い人が死ぬのを甚だ悲しく考へては自分の生きてゐるのが濟まないと思ふ事もあるのです。貴方の令弟が喜久井町にゐやうとは丸で知りませんでした、あんな事を書くと思ふ事もあるのです。貴方の思ひ懸けない人に興味を興へる事もあるものです、もう病氣も大分よくなつたでせう一日も

御退院の速かならん事を祈ります 以上

二月十三日

夏目金之助

門間 春雄様

一七

二月十五日

午前十一時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より

本郷區駒込西片町十番地畔柳都太郎氏へ(三三)

拜啓御手紙拜見「硝子戸の中」を昨日切り上げたあとで御手紙が参りました、それであの問題はまあ書かずに置させよう。私は死なないといふのではありません、誰でも死ぬといふのです、さうしてスピリチュアリストやマールテルリンクのいふやうに個性とか個人とかで死んだあと迄つづくとも何とも考へてゐないので。唯私は死んで始めて絶対の境地に入ると申したいのです。うして其絶対は相對の世界に比べると尊い氣がするのです(此尊いといふ意味を此間議論しにきた人があつて弱りましたが)

報酬問題に就ての御異存も相當な根據のある御考と思ひますが、私の見方はかうです。醫者が

いくら親切をつくしても患者が夫程ありがた「が」らないのは藥禮をとるからで、もし施療的に同様の親切を盡してやつたなら藥價診察料を收めた時以上に患者の方で親切を餘計恩にさるのが必然のサイコロジイだと思ふのです。だから實をいふと品物も受けるのは嫌です。品物なら先方の好意が私に徹するやうなもの、即ち私の趣味其他を理解した品物が欲しいのですが夫が解るものではないかもしれませんからつまり何にも持つて來ない方がよくなるのです。それでなければ煎餅一袋位が却つてよろしい(其理由は面倒だから略します)

もう一言書き添へると私は世間でやる交換問題といふ奴はあまり好まないのです、つまりブラスマイナスで〇になつてあとには人情も好意も感激も何も残らないからです。全く營業的に近いからです。(然しやらなければならん時もありませうが)

右あら〜御返事迄 勿々

二月十五日

夏目金之助

芥 舟 様

一八

二月十七日 午前十時—十一時 牛込區早稲田南町七番地より
赤坂區青山南町五丁目八十一番地齋藤茂吉氏へ (三)

拜復長塚君の死去廣告中友人として小生の名前が若し御入用ならばどうぞ御使用下さい小布施君がわざわざ御出には及びませんから、其位の事で長塚君に好意が表せるものなら私は嬉しく思ひます

節氏の死去の報が新聞に出た翌朝沼波武夫君が来て(わざわざ)向後長塚君の事に關し何かやる(遺稿を出版するとか其他)なら自分も加盟したいからどうぞ通知してくれと頼んで行きまして私は自分の方では發起せぬがあなたの方で萬一そんな企てがあつて通知を受けたら御知らせしやうと約束して置きました、是は今手紙を書く序だから申上ますがもしそんな計畫があるやうでしたらどうぞ私同様沼波君へも通知して下さい同君は生前から長塚君に會ひたがつてゐたのですさうして「土」の愛讀者なのです、同君の住所は本郷西片町十番地です 右迄 勿々

二月十七日

夏目金之助

齋藤茂吉様

二月二十日 午後一時—二時 牛込區早稲田南町七番地より
本郷區彌生町二番地寺田寅彦へ (四二)

拜啓 小生のとるアセニウムといふ雜誌に「空間時間の理論」といふ書物の批評があるから御目にかけます、君は専門家だから既に此書物を御承知かも知れず又つまらない書物かも知れないがとにかく此間の話で君が時間空間の研究中だといふ事が解つた故御参考までに御覽に入れるのです 以上

二月二十日

金之助

寅彦様

三月二日 牛込區早稲田南町七番地より
本郷區彌生町二番地寺田寅彦へ (四三)

拜啓 野間眞綱君が今度洋行する事になりました夫で君が外國へ行く時使つたあの癩大靴を貸してやる事に約束したのですがあれは今空いてゐるでせうかもし都合がつくなら貸すやうに用意して置いて下さい いづれ僕の方から人を取りに上げる積ですから、次に若し野間君に融通するとなると君の時のやうに ずつく を被せなければならぬと思ふが君はそれをどこでこしらへたか一寸教へてくれ給へ、夫から姓名の書具合なども参考になるから出来るなら上づゝみの儘渡してくれませんか 以上

三月二日

金之助

寅 彦 様

風邪はも「う」御全快の事と存じますが如何ですか 赤ん坊はもう生れたのでせうね萬歳

一一

三月五日 午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より
鹿兒島市上龍尾町九十三番地野間眞綱へ（七三）

先日御上京の節は失敬 體格検査も無事に通過愈洋行と事がきまりたる由結構です夫に就いて例の鞆の事だがあれは兩三日前寺田君から送付済になつて今僕の所にある、もし都合がつけば君が出てくる前にズツクの蔽を掛けて置いてあげる積です、然し君が出て来て好いやうに自分が注文しても充分間に合ふ事とも思ひます、再度御面會の期を待ちつゝ、匆々

三月四日

金之助

眞 綱 様

一一

三月五日 午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より
相模國鶴沼海岸武者小路實篤氏へ（九）「はがき」

御無沙汰に打過ぎました「彼が三十の時」立派な本に出来て結構ですありがたく頂ださしませた其うち「硝子戸の中」といふ小品が出たら上げませう、小泉君が展覽會の切符をくれたが行かれませんでした、よろしく

三月九日 午前十一時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より

京都府下深草村字大龜谷桃陽園津田龜次郎へ (三九)

御安着の由結構です僕も遊びに行きたくなつた小説は四月一日頃から書き出せばどうか間に合ふらしいのです夫で其前なら少しはひまも出来ると思ひますまだ是非行くとまでは決心もしてゐませんが大分心は動いてゐるのです、然し行くとすれば矢張り京都のどこかへ宿をとつてさうして君の宅へ遊びにでも出掛る譯になるのでせうか、そんな點についても君の心に餘裕があるなら注意してくれませんか、僕は京都に少々知人があるが大學の人などに挨拶に廻るのも面倒だから人に知られないで呑氣に遊びたいのです其邊は御含みを願ひたいのです、まだはつきりともしないのに既に取極めたやうな事をいつて自分でも變です。

畫を見てもらふ人がゐなくなつたので少々困つてゐます 以上

三月九日

夏目金之助

津田青楓様

奥さんへよろしく

三月十八日 午後零時—一時 牛込區早稲田南町七番地より

府下代々木山谷二百九十五番地鈴木三重吉へ (七〇) 「はがき」

京都の津田の所へ明日行く積、日限せまり君と相談する譯に參らず 失禮致します、

十八日

三月二十四日 午後九時—十時 京都市三條木屋町北大嘉より

京都府下深草村字大龜谷桃陽園津田龜次郎へ (四〇) 「はがき」

奈良へ行くなら此手紙着次第すぐ此所へきたまはぬか、一所に京都から立たう。旅費は失禮ながら僕が擔任の事。もし行かれぬなら一寸御返事を下さい、すぐ 右迄

三月二十八日

午後九時—十時 京都市三條木屋町北大嘉より
牛込區早稲田南町七番地夏目鏡へ (三五) 「はがき」

病氣もほゞよろしく候色々な人に世話になり候、ことに津田君と津田君の兄さんと御多佳さんの世話になり候津田君は寐てゐるうち始終ついてゐてくれました、姉は氣の毒をしました、歸れないでわるかつた

四月十九日

午前零時—七時 牛込區早稲田南町七番地より
京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内山本松之助氏へ (二八)

拜啓留守宅へも御出被下京都でも御尋ね被下毎々の御心配甚だ恐縮實は御目にかゝり候節申上候通り歸宅後萬事御詫を致す心算にてなまけて居候次第あしからず御海恕願上候豫期の通り八時五十六分の汽車にて東上十七日無事歸宅仕候手紙やら何やら山の如く机上に堆積今日漸く其始末に取りかゝり申候

先は右御禮旁御挨拶迄 匆匆

四月十八日

山本松之助様

夏目金之助

四月十九日

午前零時—七時 牛込區早稲田南町七番地より
麴町區平河町六丁目五番地松山忠二郎氏へ (三〇)

拜啓 京都にて大阪よりの御見舞狀拜見致し候處御返事も不致失禮致し候病氣は左したる事もなかりしが愚妻の西下を好機會に所々見物爲致候ため滞在長びき昨十七日漸く歸宅致しました色御配慮を煩はしたる事を感謝致します

御禮旁一寸御挨拶を申上ます 以上

四月十八日

夏目金之助

松山忠二郎様

四月十九日

午前零時—七時 牛込區早稲田南町七番地より
府下青山原宿百七十番地ノ十四號森次太郎氏へ(二九)

留守中御尋ね被下かつ京都へ御見舞狀被遣御芳志奉謝候妻が西下致したるを幸ひ所々見物被致爲に意外の日子を費やし昨十七日漸く歸宅致候 方々へ禮狀やら返事やら出すので大變多忙是で御免蒙ります、病氣は左したる事にもなく候故御放念被下度候 以上

四月十八日

森 次太郎様

夏目金之助

四月十九日

午前零時—七時 牛込區早稲田南町七番地より
神戸市平野町祥福寺鬼元成氏へ(三〇)

拜啓私は先月十九日から京都へ旅行しました其留守へあなたの手紙が来たのでつい返事も上げずに失禮しました昨日漸く歸つてあなたの書いてくれた禪堂の坊さんの生活を面白く讀みました私には珍らしいので大變愉快でした天目中峯和尚の遺誡はいゝものです私は大燈國師のも夢窓國師のもごちやくに覺えてゐます中峯和尚のも生死事大云々の文句は覺えてゐます、私は禪學者ではありませんが法語類(ことに假名法語類)は少し讀みました然し道に入る事は出来ませんでしたの凡夫で恐縮してゐます身體がよければ奈良の方へ行く積でした大阪から神戸へ行つてあなたの顔を見たかも知れませんが健康の具合で京都ざりにしました妻があとから来たので見物をさせるので長くなつて昨日歸りました机の上に山程手紙だの雜誌だのが積んであります私は大に辟易します今日ぼつ／＼返事を書き出しました是が十一本目の手紙です随分疲れます今日は是で御免下さい寫眞「は」近頃撮りません今度とつたら忘れないやうに屹度上げます 以上

四月十八日

夏目金之助

鬼村 元成様

どうぞ修業をして眞面目に立派な坊さんになつて下さい私の書物などは成るべく讀まないやうになさい然し今度出來た「硝子戸の中」は記念のため其うち送ります

四月十九日

(以下不明) 牛込區早稲田南町七番地より
京都市富小路御池西川源兵衛氏へ(四)

拜啓今度は久し振で京都へ参り御多用の處を色々御厄介に相成まことにありがたう存じますこと病氣にかゝり意外の御配慮を煩はし恐縮の至に堪えません又歸りには夜中にも拘はらずわざわざ停車場迄御見送り下さいまして恐れ入ります汽車中別に故障もなく十七日に歸宅致しました其日は終日茫然と致して暮しましたが今日から又少々活動に取りかかりました手紙や雑誌が山のやうに机の上に載せてあるには辟易致しました

かねて御送りの書畫帖にかいた字を今日書齋整理の節一寸見ましたら其時程いやな感じも致しませんが御座いますから何事も御笑草と存じ思ひ切つて御送り致す事に致しますいやと覺召す所は切り抜いて下さいまし全部御氣に入らなければ御破り下さい其後御送の紙へはまだ何も認める餘暇が御座いませぬ其内氣が向きましたら何か書きます

夫から京都へ歸る前かいて置いた山水二枚を御鑑定を乞ふため御送り致しますからどうぞ御遠慮のない所を御批評下さいまし津田君にも頼んで置きましたからどうぞ兩君御鑑査の上もしもの

になつてゐたら其地で表装して下さいいけなければ駄目とあきらめます忙がしいから是でやめます以上

四月十八日

夏目金之助

西川一草亭様

四月十九日

午前零時―七時 牛込區早稲田南町七番地より
京都市高臺寺枡屋町大虎野村きみ氏へ(二)

啓

京都では一方ならぬ御厄介になりました出立の際は夜中わざわざ停車場まで来ていたゞいて濟みませぬ久しく京の言葉をさいてゐたものですから東京へ歸つて東京の言葉をさくと妙な心持がする位です道中は無事につきましましたすぐ手紙を上げるのですが昨日は一日休息しました机の上は山のやうに手紙や何かゞのつてゐて手のつけやうがありません今日からぼつ／＼返事を書き始めます夫で長い手紙はかけません書畫帖は其うちいたづらをかいて送ります東京へ歸ると急に心持

がいそがしくなつて晝だの字をかいてゐられない気分になります京都は穩かです東山が眼に浮びます同時に御君さんの三味線と金ちやんの常盤津も思ひ出します左様なら御歌さんへよろしく

五七四

四月十八日

夏目金之助

野村御君さん

三三

四月十九日

(以下不明) 牛込區早稲田南町七番地より

京都市祇園末吉町梅垣きぬ氏へ

啓

京都では色々御世話になりましたことに三味線を弾いたり歌を唄つて聞かせて下さつてまことに面白う御座いました打ち明け話も感心して聴きましたゴリ押しをなさいゴリ押しに限りませ私は無事に東京へ着きました方々へ一度に手紙を出すので大變です今朝から晩迄手紙のかきつゞけです書畫帖は其うち送ります都豆は大變小供がよろこんでたべてゐますあなた方は人のうちへくと屹度何かくれますね私は反對でついぞ人の宅へ土産を持つて行つた事はありません然し約束

の短冊懸は送ります然し今は忙がしくていけません少し待つて下さい御歌さんよろしく 以上

四月十八日

夏目金之助

梅垣きぬ様

三四

四月十九日

午前零時—七時 牛込區早稲田南町七番地より

京都市祇園新橋磯田多佳氏へ(一)

啓

滞京中は色々御世話になりましたことにあなたの家で寐てゐたのは甚だ恐縮ですあゝいふ商賣をしてゐる所で寐てゐられては嘸迷惑でしたらう私も愉快に歸りたかつたが是非に及ばなかつたのですどうか御母さんや何かによろしくいつて下さい歸る時には御見送りをありがたう無事に歸りました昨日はたゞ漫然としてゐましたが今日からは働らき出しました手紙や雜誌が山の如く机の上に積んであります一々返事を出したり用を片付けなくてはなりません此手紙は十四本目です(加賀さんの十三本目)一申節や河東節は大變面白う御座いました是も木屋町へ偶然宿をとつ

五七五

た御蔭かも知れませんが御世話になつた御禮をする積ですがまだそんな所へは手が届きません
あなたは浮世繪がすきらしいが浮世繪の寫真版になつた本はいやですか色彩は無論ありませんか
らどうかと思ひますが一寸伺ひます、ぬめの額は右の次第ですぐは書けません、東京の生活はあ
なたのと違つて随分猛烈に色々な事が押し寄せて來ますから當分待つて下さい右迄御機嫌よう妻
よりもよろしく申します 以上

四月十八日

夏目金之助

磯田多佳様

岡本さんに禮状を出さうと思ひますが名前がよく解らないからあなたからよろしく願ひます

三五

四月十九日

午前零時—七時 牛込區早稻田南町七番地より

福島市三郡共立病院内門間春雄氏へ(八)

啓私は先月から旅行をして昨十七日歸りました御手紙は拜見致しました晝はかきたいが拙いの

と一つは東京の生活が如何にも猛烈なので落ちついて描いてゐられないのです久しく留守にした
ものだから手紙を書かなくつてはならないので朝から夫ばかりにかゝつてゐます今午後十時です
長い事は何も云へません失禮ながら是で御免蒙ります 以上

四月十八日

夏目金之助

門間春雄様

御病氣を御大事になさいまし

三六

四月二十二日

午後七時—八時 牛込區早稻田南町七番地より

神戸市平野町祥福寺富澤敬道氏へ(三)

御手紙をありがたう御病氣が癒つて神戸へ御歸り猛烈に己事御究明の由何よりの事と思ひます
私はあなたよりいくつ年上か知りませんがあなたが立派な師家になられた時あなたの提唱を聴く
迄生きてゐたいと願つてゐます其時もし死んでゐたらどうぞ私の墓の前で御經でも上げて下さい

又間に合つたら葬式の時来て引導を渡して下さい私に宗旨はありませんが私に好意をもつてくれる偉い坊さんの讀經が一番ありがたいと考へます、鬼村さんは忙がしいのに禪堂の生活を長々と書いてくれました親切な事です然しあまりそんな事で時間をつぶさない方が修業の爲によくはないでせうか門外の私にはよく解りませんがもし左様だつたらやめた方がいゝでせう（私はありがたいけれども）鬼村さんはあなたの事をいつでも富澤様と書いて來ます多分あなたの方が先輩なのでせう感心の事です。雉の句は好くありません。序だから伺ひますが祥福寺の和尚さんは何といふ人ですか。多分御爺さんだらうと思ひますがどうですか。それから祥福寺の開山は誰で臨濟の何派に屬するのですかそれとも本山なのです。こんな質問は急いで知る必要もありませんただ序だから伺ふのです。私は禪坊さんとあまり交際がありません。然し禪坊さんが好きです。だからあなたや鬼村さんにこんな事をよく聴くのです。ペンで手紙をかく事は今の世では輕便で時を省いて好いでせう御師匠さんがいけないといふなら御師匠さん丈に墨で書いて御上げなさい。昔の禪坊さんには字の旨い人が澤山ありますが是からは時勢が時勢だからさうは行きませぬ。字が拙くても道を體得すれば其方がどの位いゝか分りませぬ。今度もし關西へ行つたら祥福寺へ行つてあなたと鬼村さんに會ひたいと思ひます。最後に勇猛の御工夫を祈ります 以上

四月二十二日

夏目金之助

富澤敬道様

三七

四月二十三日

午後一時—二時 牛込區早稲田南町七番地より
京都府下深草村宇大龜谷桃陽園津田龜次郎へ（四二）

拜啓京都では一方ならぬ御厄介になりました歸つてからすぐ手紙を上げやうと思つたのですが或はも「う」山口へ出掛けられた事と思つてつい其儘にして置いたらあなたから手紙が來てまだ桃陽園に居らつしやる事を承知しました早く行つて金を儲けて入らつしやい東京は變りはありませんどこも浮世は變てこなものです私は神戸の祥福寺の若い禪坊さんの二人と文書の往復をしてゐます二人と「も」心持の好い人です親切でさうして俗人のやうにいやな臭味がありません其うちの一人が今に名僧になつて私の前で碧巖の提唱をすと云つて來ましたあなたも立派な繪をかいて私を感服させて下さい畫と云へば山水を二枚一草亭のもとに送りましたあなたと二人で鑑査してもらひたいのです奥さんによろしく 以上

四月二十三日

夏目金之助

津田青楓様

五八〇

桃陽園主にもらひものゝ禮を云ハズニ來マシタドウゾ宜敷云ツテ下サイ

三八

四月二十四日

午前十一時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より
府下巢鴨町上駒込三百二十九番地野上豊一郎へ (六八)

旅行から歸つたら手紙のかきつゞけです君の奥さんも小供も病氣のやうだが大事になさい病人は一番心配なものだから「硝子戸の中」は君の分が署名してうちに残してあります然し岩波からでも貰つたら二重になる譯だが今度きたら持つて行き給へ ほめてくれてありがたう 小手川さんからは味噌がきましたまだ禮状を出さずにゐるから今日書きますあれは小手川武馬でせうねいそぐから此で失禮します 以上

四月二十五日

豊一郎様

金之助

三九

四月二十七日

午後二時—三時 牛込區早稲田南町七番地より
大分縣臼杵町小手川武馬氏へ

拜啓先日は味噌一樽遠方よりわざ／＼御送被下ありがたく存候早速御禮申上べきの處長く旅行致し居り歸りては雑用に取紛れ其上御所と御名前がしかと判然致さざりし爲めつゝ／＼遅引恐縮の至御寛恕可被下候先は右御禮迄匆々如此に候 以上

四月二十七日

夏目金之助

小手川武馬様

四〇

四月二十七日

午後二時—三時 牛込區早稲田南町七番地より
牛込區市ヶ谷田町二丁目一番地馬場勝彌氏内馬場勝彌後援會へ (はがき)

五八一